

# I.2023年度事業報告

## 1.会勢報告

{総務担当:中川 千鶴、横井 元治}

【総数】

(単位:人)

会 員	2023年4月1日	2024年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,235	1,215	76	96

会員資格変更

正会員:	1,170	1,147	46	76	-30	7
準会員:	65	68	30	20	+10	-7

【内 訳】

(単位:人)

支 部	2023年4月1日	2024年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 ( ):支部間 の移動
北 海 道	27	25	0	2	-2 (0)
東 北	41	41	1	2	-1 (+1)
関 東	687	687	54	59	-5(+5)
東 海	113	107	6	8	-2(-4)
関 西	214	208	9	14	-5(-1)
中国・四国	90	84	2	7	-5(-1)
九州・沖縄	59	59	4	4	0(0)
国 外	4	4	0	0	0 (0)
賛 助 会 員	21社 22口	22社 23口	2社 2口	1社 1口	1社 1口

## 2. 事業報告

2023年度は、一般社団法人日本人間工学会第8期（2022年6月～2024年6月）の2年目として、学会の活性化や会員向けサービスの充実に向けた取り組みを継続した。学会主催の有料セミナーを海事人間工学研究部会と共催で開催した。また、若手会員の継続の一助となるよう若手支援委員会とともに卒後2年間の準会員継続制度を設け、賛助会員がより学会に参加しやすいようサービスの充実を図った。退会届の見直しをおこない、退会者の退会理由を明確にして今後の学会運営に活かせるようにした。

- (1) 2023年定時社員総会を2023年5月27日に慶應義塾大学矢上キャンパスおよびオンラインにおいて開催し、2022年度事業報告・収支決算、2023年度事業計画・収支予算等について審議し、決定した。
- (2) 日本人間工学会第64回大会を下村義弘大会長のもと2023年9月7日（木）～8日（金）に千葉大学けやき会館で開催した。
- (3) 学会誌「人間工学」の第59巻2～6号及び第60巻1号の計6冊を発行した。
- (4) 理事会を2023年4月24日、10月2日、2024年1月10日、3月6日の計4回開催した。
- (5) 2023年度論文賞（1件）、研究奨励賞（1件）、グッドプラクティス最優秀賞（1件）優秀賞（1件）、功労賞、トップ10%査読者賞、標準化貢献賞の表彰を総会時に行った。
- (6) 人間工学専門家認定機構において、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験（A方式試験）合格者11名、準専門家合格者20名を新たに得た。その結果、2023年度末現在の認定人間工学専門家は216名、準専門家182名、アシスタント17名、シニアCPE15名となった。
- (7) 海事人間工学研究部会と共催で2024年1月17日に「評価グリッド法による感性価値創造セミナー」（有料、学会員は無料）を開催した。
- (8) 以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。

### 8-1) 広報委員会

ホームページ、JES ニュースレターを中心に広報活動を推進した。グッドプラクティスデータベース（GPDB）の取り組みを継続するとともに、全国大会だけでなく、支部大会や講演会、周辺学会などで広報を行った。

### 8-2) 編集委員会

学会誌「人間工学」の新運営方針「投稿したいジャーナルを目指して」を軌道にのせるために、人間工学のプレゼンスをより高める学術誌を目指す取り組みを進めた。1)理論系・実践系論文ごとによる査読基準、2)査読委員制度、3)迅速査読などの運用は継続しつつ、4)60周年記念企画として「理事の考えるリサーチイシュー」の運用、5)実践系論文の増加策の検討、6)サステナブルな編集委員会運営について取り組んだ。また、7)表彰委員会との協同による査読者表彰制度の運用（トップ10%査読者賞）等を行った。2023年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が36編（採択30編、不採択6編、採択率83%）であった。

### 8-3) 国際協力委員会

IEA評議会（2023.10.18-19, チリ）等、国際協力関連会議に委員長はじめ各委員が出席した。また、IEAとの連絡の窓口となり、JESの情報をIEAに展開するとともにIEAの情報をJESに展開した。ACED評議員会（ムンバイ、インド、12.13）の出席、ならびにACED開催に向け会員への情報提供、JES-ESKジョイントシンポジウムの開催などを行った。

### 8-4) ISO/TC159国内対策委員会

DIS等の規格原案に関する計42件の投票を行うとともに、国内委員会を開催し（全体会議3回、分科会22回）審議を行った。また、国際会議出席（34回、延べ110名出席）などによってISOにおける人間工学標準の見直し、審議等に寄与した。人間工学ISO/JIS規格便覧2023を発行した。

### 8-5) 表彰委員会

表彰選考等に関係する広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、人間工学専門家認定機構等と連携し、公正な業務運営のもと2023年度各賞受賞者に対する授与式を行った。2024年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進めた。

### 8-6) 安全人間工学委員会

佐相委員を実行委員長として、安全工学シンポジウム2023（幹事学会・日本人間工学会）の企画・運営を行った。安全人間

工学ニューズレターで安全に関わるヒューマンファクターズに関心を持つ会員および非会員にシンポジウムや研究会の情報を発信すると共に、共催研究会を3回開催した。

#### 8-7)学術担当

日本学術会議、横断型基幹科学技術研究団体連合、および文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。横幹連合理事ならびに当連合の広報出版委員会委員長を務めたが、2023年度をもって本学会は横断型基幹科学技術研究団体連合から脱退したことに伴い、本年度を持って同活動も終了した。

#### 8-8)若手支援委員会

人間工学専門家認定機構と合同で、第64回大会時にランチョンセミナー「ジブンとミライと人間工学—学生同志や企業の先輩との交流カフェ—」を開催し、第53回関東支部大会時に学生・若手支援カフェセミナー「ジブンとミライと人間工学～学生同志や企業の先輩と想いを巡らす90分～」を開催した。また、準会員から正会員への移行に促す制度の検討を行った。

#### 8-9)企業活動推進委員会

JES/CPE 会員を対象としたアンケート調査(2023年3月)の結果から、企業内活動の現状・課題などを分析し、今後の活動につなげた。日本人間工学会第64回大会(2023年9月7日)では「～企業のみなさんへ～人間工学活動に役立つ事例紹介」をテーマにシンポジウム(登壇6名)を、2023年度KANSEI“感性”サロン(2023年10月6日)では委員会活動内容の紹介も実施した。また、第65回大会での企画セッション(ポスター展示)を立案し準備を開始した。

#### 8-10)国際誌検討委員会

特色ある公式英文誌の方向性として、①「理論と実践の橋渡し」を促進させるジャーナル、②和文誌の資産を継承したハイブリッド・ユニバーサルジャーナル化(多言語対応)を進めるべく、投稿数確保戦略・運用方法について引き続き検討を進めた。

#### 8-11)子どものICT活用委員会

子どものICT機器活用に関する人間工学課題について継続的に検討し、第65回大会においてシンポジウムを開催して学校における課題と対策について議論することを企画した。

#### 8-12)将来構想・普及委員会

学会の組織的対外活動として行政に対する働きかけが重要であるという昨年度の総括結果に基づいて、日本人間工学会第64回大会において、経済産業省商務サービスグループ デザイン政策室の方に参加いただき、人間工学の将来構想と新たなリサーチイシューに関する企画セッションを行った。加えて、IEAのFuture of Ergonomicsに関するウェビナーにて講演を行い、高齢化や少子化の社会問題とデジタル化を絡めた日本の人間工学の将来構想について紹介した。

#### 8-13)PSE委員会

IEA PSE (Professional Standard and Education) 委員会と連携しながら JES および BCPE-J 会員のスキルアップについて検討した。

#### 8-14)選挙管理委員会・役員候補者推薦委員会

一般社団法人日本人間工学会第9期代議員および役員選挙を実施した。

#### (9)支部、部会

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の計7支部と、ビッグデータ人間工学研究部会、PIE研究部会、科学コミュニケーション部会、感性情報処理・官能評価部会、衣服人間工学部会、医療労働関連MSDs研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、海事人間工学研究部会、ワーク・アーゴノミクス研究部会、システム大会部会の計11研究部会が、多彩な活動を行った。

#### (10)関連学術団体等

関連学術団体等の共催・協賛について、学会誌やHPイベント案内、ニューズレター掲載等を行った。

#### (11)学会事務局

学会事務局では、JENC 事務局業務、編集業務の担当など管理業務の見直しを行い一層の効率化と経費節減を図った。さらに、学会誌や大会講演集のJ-STAGEへの公開を進め、学会HPおよびJESニューズレターの配信により迅速な情報提供に努めた。

### 3. 委員会・担当活動

#### [常設委員会・担当]

#### 3-1. 広報委員会

{委員長:青木 宏文, 副委員長:松田 文子}

- (1) 理事会, 支部, 委員会, 研究部会, 事務局などと連携・協力のもと, ホームページ, JES ニュースレターを中心に広報活動を推進した。また, 重要ニュースのお知らせ, 学会主催/協賛等のイベント案内, 社会発信等をホームページにて情報発信した。
- (2) グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続するとともに, 全国大会だけでなく, 支部大会や講演会, CPE の会合, 周辺学会などでパンフレットの配布等を行った。
- (3) 「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」の取り組みを継続し, 人間工学の社会への普及に努めるとともに, 学会事務局, 各委員会と連携し, 広報活動を行った。
- (4) 「ピックアップがんばる人間工学家」の活動を人間工学専門家認定機構と連携しておこなった。
- (5) 効果的な広報戦略につなげるため, ホームページアクセス解析 (表示回数等) の分析を開始した。

#### 3-2. 編集委員会

{委員長:榎原 毅, 副委員長:村木 里志}

- (1) 会誌「人間工学」の編集・発行
  - 1) 2023年04月:第59巻2号 (pp.053-098) :エディトリアル1編, オープンデータ1編, 原著論文1編, 短報1編, 技術報告1編 他
  - 2) 2023年06月:第59巻3号 (pp.099-140) :エディトリアル1編, 原著論文2編, 技術報告1編 他
  - 3) 2023年08月:第59巻4号 (pp.141-190) :リサーチ・イシュー1編, 原著論文3編, 短報1編 他
  - 4) 2023年10月:第59巻5号 (pp.191-240) :エディトリアル1編, オープンデータ1編, 実践報告2編, 原著論文2編 他
  - 5) 2023年12月:第59巻6号 (pp.241-301) :エディトリアル1編, リサーチ・イシュー1編, 原著論文2編, 短報1編 他
  - 6) 2024年02月:第60巻1号 (pp.001-058) :オープンデータ2編, 原著論文3編 他
- (2) 第8期編集委員会では学会誌「人間工学」の運営方針「投稿したいジャーナルを目指して」を軌道にのせるとともに, 人間工学のプレゼンスをより高める学術誌を目指す取り組みを進めた。
  - 1) 理論系・実践系論文ごとによる査読基準の継続運用
  - 2) 査読委員制度の運用
  - 3) 迅速査読制度の運用
  - 4) 60周年記念企画として「理事の考えるリサーチイシュー」の掲載・運用を開始
  - 5) 実践系論文の投稿呼びかけ (関東・東海・関西・中国四国・九州沖縄支部大会での投稿呼びかけプレゼン実施)
  - 6) サステナブルな編集委員会運営 (役割分掌の明確化)
  - 7) 表彰委員会との協同による査読者表彰制度の運用 (トップ10%査読者賞)
  - 8) 学会誌の発行形態に関する検討および国際誌検討委員会との協働によるジャーナル形態の検討
  - 9) JES64大会での編集委員会セミナー「人間工学誌にリサーチ・イシュー, 実践報告を投稿しませんか」の開催
  - 10) 掲載料の見直し (投稿区分による不均衡の是正:2024年4月1日より施行)
- (3) 編集委員会の開催  
オンラインによる編集委員会を計3回 (2023年8月, 9月, 2024年2月), うち編集・査読合同委員会を1回開催した (9月)。
- (4) 投稿論文数・採択率・査読期間  
前年度に引き続き, 採録率や査読期間に関する情報をホームページに掲載した。  
2023年度に受け付けた投稿論文は, 通常投稿が33編であった。2023年度に採否が判定した投稿論文は通常投稿が36編 (採択30編, 不採択6編, 採択率83%) であった。また, 2023年度に判定が確定した論文の1回目査読結果返却の平均日

数は、採択論文28.7日、不採択論文36.3日、投稿から最終判定通知までの平均日数は、採択論文101.2日、不採択論文51.7日であった。

### 3-3. 国際協力委員会

{委員長:小谷 賢太郎,副委員長:榎原 毅}

#### (1)委員会開催

MLによる委員会の開催,そのほか関連事項について緊密な連絡を実施

#### (2)理事会審議・報告

次回日韓共同シンポジウム開催についての審議,国際学会の協賛依頼の承認,国際協力委員会 のウェブサイトにおける情報公開についての紹介,関連学会の日程と開催方法についての報告など

#### (3)国際交流

##### ・IEA 評議会(チリ,10月18~10月19日)への出席

鳥居塚委員,柴田委員が現地で出席し,榎原PSE Chair,河合 ICTchair,小谷委員長がオンラインにて出席した。ECメンバー報告,PSE 委員会報告,韓国で行われる次回 IEA2024大会の準備状況,IEA Awards 委員会報告,諸団体との覚書について,監査報告,および各国加盟学会からの近況報告などが行われた。

##### ・ACED評議会(ムンバイ,インド,12月13日)への出席

小谷委員長,鳥居塚委員,柴田委員が現地で出席し,次回大会や今後の運営方法について話し合った。

##### ・国際表彰対応(提出資料の準備,表彰委員会との連携,IEA Award Committeeとの事務対応)

IEA Kingfar Award等の申請支援を行った。

##### ・JES-ESK ジョイントシンポジウムの開催(9月7日~8日,日本人間工学会第64回大会と併催)

##### ・会員に向けて国際会議のNLなどによる広報,情報提供

### 3-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:佐藤 洋,副委員長:横井 孝志}

#### (1)委員会開催,国際会議出席状況

・国内委員会:全体会議3回,分科会45回(メール審議含む)

・国際会議出席状況:41回の国際会議に延べ135名出席(ネット会議を含む)

#### (2)発行規格,投票

<新ISO規格>:0件

<投票>:NP 6件,CD 8件,DTR 4件,CIB 17件

#### (3)分科会活動(メール審議含む)

・SC1(人間工学の一般原則)&WG 分科会4回開催

・SC3(人体寸法と生体力学)&WG 分科会0回開催

・SC4(人間とシステムのインタラクション)&WG 分科会29回開催

・SC5(物理的環境の人間工学)&WG 分科会10回開催

・アクセシブルデザイン関連会議 分科会2回開催

#### (4)経済産業省の委託事業

令和4年度産業標準化推進事業(戦略的国際標準化加速事業:産業基盤分野に係る国際標準開発活動/テーマ名:インタラクションを成功させるための要件とプロセスに関する国際標準化)の活動に取り組んだ。また,その成果として,ISO/TC159/AHG2 Service Ergonomics の設立を日本から提案し了承された。

### 3-5. 表彰委員会

{委員長:吉武 良治,副委員長:鴻巣 努}

- (1) 表彰選考等に係る広報委員会,編集委員会,国際協力委員会,ISO/TC159 国内対策委員会,人間工学専門家認定機構等と連携し,公正な業務運営を行った。
- (2) 2023年定時社員総会において功労賞,論文賞,研究奨励賞,人間工学グッドプラクティス賞の授与式を行った。
- (3) 関西支部大会,関東支部大会において,優秀研究発表奨励賞の授与を行った。
- (4) 功労賞,論文賞,研究奨励賞,人間工学グッドプラクティス賞,トップ10%査読者賞,標準化貢献賞候補の選考を行うとともに,表彰の準備を行った。

### 3-6. 安全人間工学委員会

{委員長:狩川 大輔,副委員長:藤野 秀則}

- (1) 狩川(委員長,東北大学),藤野(副委員長,福井県立大学),鳥居塚(日本大学),佐相(電力中央研究所),細田(関東学院大学)の5名で活動した。
- (2) 日本学術会議安全工学シンポジウム2023(幹事学会・日本人間工学会)の企画・運営を行った。佐相委員を実行委員長,藤野委員を実行委員とし,安全人間工学委員会の現メンバー5名に加えて,芳賀(社会安全研究所),小松原(早稲田大学)・中西(慶應義塾大学)の各先生方に企画運営委員会に加わって頂き,特別講演,連携シンポジウム,学会企画セッションの他,当日の運営等に当たった。(2023年6月22日(木),23日(金),ハイブリッド開催,参加登録者数 各日約700名)
- (3) 産業・組織心理学会第149回部門別研究会「個々の力を測り,安全につなげる」を共催した。(2023年5月27日(土),ハイブリッド開催)
- (4) 第23回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップ(テーマ:DXによるプロセスの革新・改善が社会にもたらすもの)を日本原子力学会ヒューマン・マシン・システム研究部会および日本品質管理学会と共催した。(2023年12月18日(月),オンライン開催)
- (5) 研究会「Learning from All Operations(全てのオペレーションからの学習)の実現に向けて」を東北支部と共催した。(2024年3月23日(土),ハイブリッド開催,参加者約130名)
- (6) 安全人間工学ニュースレターで安全に関わるヒューマンファクターズに関心を持つ会員および非会員にシンポジウムや研究会の情報を発信した。

### 3-7. 学術担当

{担当:青木 洋貴,能登 裕子,久保 博子}

日本学術会議,横断型基幹科学技術研究団体連合,および文科省科学研究費助成事業等の活動を継続的にフォローした。横幹連合理事ならびに当連合の広報出版委員会委員長を務めたが,2023年度をもって本学会は横断型基幹科学技術研究団体連合から脱退したことに伴い,本年度を持って同活動も終了した。

### 3-8. 人間工学専門家認定機構

{機構長:八木 佳子,副機構長:井出 有紀子}

(1) 会員状況 (2024年3月31日現在)

- 人間工学専門家 216名 (2023年度 資格取得者11名,退会者4名)
- 人間工学準専門家 182名 (2023年度 資格取得者24名,退会者12名[内3名は専門家へ登録])
- 人間工学アシスタント 17名 (2023年度 資格取得者0名,退会者0名)

シニア認定人間工学専門家 15名(2023年度 登録者4名,退会者1名)

(2)資格認定試験及び審査実施状況

資格認定試験(A方式試験)を2回実施(東京2023年9月2日,大阪2024年2月17日)

受験14名,合格11名

準専門家・アシスタントの書類審査を年4回実施

準専門家:応募21名,書類審査に20名合格,1名は審査中

(3)定期総会の開催

日時:2023年4月14日(金)17:00~17:45 現地とオンラインのハイブリッド開催

出席者:64名,委任状102名

(4)幹事会の開催

第51回幹事会 日時:2023年6月7日(水)15:00~16:44 オンライン Zoom 開催

第52回幹事会 日時:2023年9月2日(土)15:00~16:50

TKP市ヶ谷カンファレンスセンター および オンライン Zoom 開催

第53回幹事会 日時:2024年2月7日(水)10:00~11:00 オンライン Zoom 開催

(5)再認定の実施

資格更新時期を迎えた人間工学専門家,人間工学準専門家へ再認定手続きについて連絡し,手続きを進めた.また,認定証のデザインをリニューアルした.

(6)企画シンポジウムの開催

JES若手支援委員会とコラボし,若手支援イベントを2回開催.

・日本人間工学会第64回大会(千葉大学)

開催日時:2023年9月8日(金)12:20~13:20

タイトル:ランチョンセミナー『ジブンとミライと人間工学』- 学生同志や企業の先輩との交流カフェ -

・関東支部大会(東京都立大学 日野キャンパス)

開催日時:2023年12月2日(土)16:10~17:40

タイトル:学生・若手支援カフェセミナー ジブンとミライと人間工学

~ 学生同志や企業の先輩と想いを巡らす 90分 ~

(7)各支部大会にて機構の取り組みや資格メリットのPR・発表を実施

・北海道支部大会(11.25開催)・関東支部大会(12.2開催)

・東海支部研究大会(11.11開催)・関西支部大会(12.9開催)

・中国・四国支部大会(12.9開催)・九州・沖縄支部大会(12.1開催)

(8)イベントの開催

機構イベント企画「パラスポーツと義肢装具」

日時:2023年10月30日(月)15:30~18:00 場所:芝浦工業大学豊洲キャンパス

(9)会報(Web版)の発行

会報 Vol.71(2023年9月19日発行)

会報 Vol.72(2023年10月25日発行)

会報 Vol.73(2023年11月22日発行)

会報 Vol.74(2024年2月13日発行)

(10)人間工学グッドプラクティス(GP)賞への協力

表彰委員会と協力し,認定人間工学専門家による一次審査を実施し,5月27日の2023年日本人間工学会定時社員総会にて第11回の表彰を行った.

(11)資格制度の見直しと改訂

アシスタントと準専門家資格について,名称および応募要件について見直しを行った.その結果,アシスタントの新名称は「認定人間工学プラクティショナー」とし,応募要件も2024年度より変更する.また,資格更新時には新たにポイントの申請を必要とする.

## [臨時委員会・担当]

### 3-9. 若手支援委員会

{委員長:神田 幸治,副委員長:境 薫,石橋 圭太}

- (1) 人間工学専門家認定機構と合同で,第64回大会時にランチョンセミナー「ジブンとミライと人間工学—学生同志や企業の先輩との交流カフェ—」を開催し,第53回関東支部大会時に学生・若手支援カフェセミナー「ジブンとミライと人間工学 ~ 学生同志や企業の先輩と想いを巡らす90分 ~」を開催した。いずれも,学生・社会人の混合グループに分かれて自身の研究や就職,仕事等についてディスカッションが行われた。
- (2) 準会員から正会員への移行に促す制度の検討を行った。

### 3-10. 企業活動推進委員会

{委員長:佃 五月,副委員長:横山 詔常}

- (1) 委員会(全11名)を組織し,JES/CPE会員を対象としたアンケート調査(2023年3月)の結果を基に,今後の活動計画について議論した(オンライン開催)。
- (2) 上記の結果から,日本人間工学会の企業会員向けに,社内での人間工学活動における課題解決に向けてのヒントや気づきが得られるようなイベントなどの企画を検討した。
- (3) 日本人間工学会第64回大会(2023年9月7日)にて,「~企業のみなさんへ~ 人間工学活動に役立つ事例紹介」と題してシンポジウムを実施した(登壇者6名:佃五月,金杉友成,善方日出夫,平田一郎,大島浩幸,横山詔常)。
- (4) 2023年度KANSEI“感性”サロン(2023年10月6日)にて,本委員会の活動内容について紹介した。
- (5) 日本人間工学会第65回大会での企画セッション(ポスター展示)を立案し,準備を開始した(発表者10名予定)。

### 3-11. 国際誌検討委員会

{委員長:榎原 毅,副委員長:村木 里志,下村 義弘}

- (1) 前年度に引き続き,日本人間工学会による学術成果の国際発信基盤の整備について検討を行った。
- (2) 特色ある公式英文誌の方向性として,①「理論と実践の橋渡し」を促進させるジャーナル,②和文誌の資産を継承したハイブリッド・ユニバーサルジャーナル化(多言語対応),③創刊時にオンラインジャーナルへ移行,④IEA Endorsement Journal化,の4つの方向性について検討を重ねた。

### 3-12. 子どものICT活用委員会

{委員長:柴田 隆史,副委員長:岡田 衛}

- (1) 学校において安全で快適にICT機器を利用できるように,児童生徒や学校関係者に分かりやすく実用的な情報を伝えることを継続的に検討した。また,これまでに作成したウェブサイトを活用して,学校教員などに委員会活動を紹介した。
- (2) 子どものICT機器活用に関する人間工学課題について情報交換し,第65回大会においてシンポジウムを開催して学校における課題と対策について議論することを企画した。



### 3-13. 将来構想・普及検討委員会

{委員長:持丸 正明,副委員長:青木 宏文,榎原 毅}

学会の組織的対外活動として行政に対する働きかけが重要であるという昨年度の総括結果に基づいて、日本人間工学会第64回大会において、経済産業省商務サービスグループ デザイン政策室の方に参加いただき、人間工学の将来構想と新たなリサーチイシューに関する企画セッションを行った。会場からも活発な質問が出た。加えて、IEAのFuture of Ergonomicsに関するウェビナーにて講演を行い、高齢化や少子化の社会問題とデジタル化を絡めた日本の人間工学の将来構想について紹介した。

### 3-14. PSE 委員会

{委員長:鳥居塚 崇,副委員長 八木 佳子}

IEA PSE (Professional Standard and Education) 委員会と連携しながら JES および BCPE-J 会員のスキルアップについて検討した。JES 理事長と CPE 機構長が定期的に情報交換を行い、人間工学の発展に向けた施策について検討した。またフランス CNAM と定期的なミーティングを重ね、システムズアプローチの方法論についての議論を深めた。

### 3-15. 選挙管理委員会

{委員長:松田 文子}

- (1) 前回選挙に引き続き、第9期代議員選挙を電子投票システム (i-Vote) にて実施した。
- (2) 第9期選挙管理委員会 (全8名) を組織した。
- (3) 代議員選挙では、2023年10月20日に選挙案内のメールを発送するとともに投票サイトをオープンし、11月13日23:59に投票を締め切った。開票、諾否確認の結果、第9期代議員122名が確定した。選挙案内は今回より圧着葉書からメールに変更した。
- (4) 役員選挙については従来通り郵送 (投票用紙方式) による投票を実施した。
- (5) 役員選挙では、2024年1月26日に役員候補者推薦委員会より候補者の連絡があったことを受け、準備を経て、2月5日に役員選挙案内を有権者 (第9期代議員) に発送した。投票期限は2月29日 (必着) とした。  
開票の結果、役員候補者推薦委員会からの候補者全員の当選が確定し、3月4日に候補者へ通知した。
- (6) これらの選挙経過および選挙結果を、第67回理事会 (2023年10月2日)、第68回理事会 (2024年1月10日)、第69回理事会 (2024年3月6日) で報告した。

### 3-16. 役員候補者推薦委員会

{委員長:吉武 良治}

役員候補者推薦委員会内規に基づき、以下のように役員候補者の推薦を行った。

- (1) 推薦委員会委員による理事長候補者の推薦 (メール審議)
- (2) 理事長候補者本人の承諾
- (3) 推薦委員会において、理事・監事候補者を推薦
- (4) 理事・監事候補者本人の承諾
- (5) 候補者の略歴等の作成依頼と内容の確認 (必要に応じて修正)
- (6) 候補者略歴の選挙管理委員会への送付

### 3-17. 第 64 回大会担当

{担当:下村 義弘}

2023 年 9 月 7 日～2023 年 9 月 8 日に、「ウェルビーイングと人間工学」をテーマとする日本人間工学会第 64 回大会を千葉大学けやき会館(千葉市稲毛区)にて対面を主としてハイブリッド開催した。対面参加は 320 名を超え、オンラインからの参加も含め大いに盛り上がり終了した。立食形式の大会懇親会は 80 名前後の対面参加があった。会期前夜に行われた理事会懇親会では、IEA のプログラムオフィサーをはじめとする海外研究者との交流があった。

#### <開催概要>

(1) 特別講演・事務局企画講演

石川善樹先生(公益財団法人Well-being for Planet Earth)

「ウェルビーイングからみる世界の多様性」

落合陽一先生(筑波大学デジタルネイチャー開発研究センター)

「人間工学とデジタルネイチャー:微分可能オントロジーにおける新しい探求」

辻麻友先生(株式会社セントラルユニ)

「“理想の病院づくり”を問い、仮説検証していくプラットフォーム『HCD-HUB』の活動」

(2) 理事会主催シンポジウム

「人間工学の現状と将来」

(3) 協賛企業・団体 13 団体

(4) シンポジウム 13 件

(5) 一般講演 143 件(口頭 86 件,ポスター57 件)

(6) 企業展示 10 件

(7) 日韓共同シンポジウム 16 件

(8) IEA2024(チェジュ(済州)島にて開催予定)のアピールプレゼンテーション

#### <参加者内訳>

431 人(うち国内参加者:403 人,外国人参加者:28 人)

国内事前登録		国内当日参加	
正会員	168	正会員	30
準会員	32	準会員	4
非会員一般	85	非会員一般	21
非会員学生	55	非会員学生	8
合計	340	合計	63

## 4.支部活動

### 4-1.北海道支部

{支部長:小林 大二}

#### (1) 支部役員会

日時: 2023年5月20日(土)

場所: オンライン

議題: 第8期 北海道支部役員の追加について, 2022年度事業報告, 2022年度決算報告, 2023年度事業計画, 2023年度予算執行計画, 2023年度支部大会および総会の開催について

#### (2) 支部総会および支部大会

大会長: 三宅晋司(公立千歳科学技術大学大学院)

日時: 2023年11月25日(土) 10:30~16:30

場所: 小樽商科大学 小樽キャンパス 3号館104号室, およびWeb会議(Zoom)

##### 1) 支部総会

議題: 2022年度 支部事業報告, 2022年度 決算報告, 2023年度 支部事業計画, 2023年度支部予算執行計画

##### 2) 支部大会

10:35~10:40 開会の辞 大会長: 三宅 晋司(公立千歳科学技術大学大学院)

10:40~12:00 一般演題I 座長: 佐藤 健斗(北海道科学大学)

1. バイオモルフィックデザインが仮想空間内での歩行に及ぼす影響  
○中居 真愛, 長谷川 美鈴, 小林 大二(公立千歳科学技術大学)
2. HEMSに対するニーズの一考察  
○中西 芽衣, 平沢 尚毅(小樽商科大学)
3. 仮想環境内での作業性改善に関する人間工学的研究  
○福田 龍誠, 桑田 若海, 小林 大二(公立千歳科学技術大学)
4. 適切に投資信託を利用するための考察  
○野尻 こなつ, 平沢 尚毅(小樽商科大学)
5. 自律型システムにおける外向けHMIが歩行者に及ぼす効果  
○堀 伊吹, 加藤 悠芽, 小林 大二(公立千歳科学技術大学)
6. レクリエーション体験が仮想空間内の作業者の心理生理に及ぼす影響  
○吉田 伊吹, 小西 亮輔, 小林 大二(公立千歳科学技術大学)

12:45~13:30 CPE企画セッション「活かそう!人間工学専門家」司会: 小林 大二(公立千歳科学技術大学)

##### (1) 人間工学専門家資格制度と資格取得のメリットについて

○笹川 佳蓮, 八木 佳子(人間工学専門家認定機構/株式会社イトーキ), 井出 有紀子(人間工学専門家認定機構/NEC)

##### (2) 認定人間工学専門家資格制度の改定について

○山田 幸子(人間工学専門家認定機構/本田技研工業株式会社), 水本 徹(人間工学専門家認定機構/株式会社島津製作所), 八木 佳子(人間工学専門家認定機構/株式会社イトーキ), 井出 有紀子(人間工学専門家認定機構/NEC), 浅田 晴之(人間工学専門家認定機構/株式会社オカムラ), 岡田 英嗣(人間工学専門家認定機構/パナソニック株式会社)

13:30~14:00 人間工学誌 編集委員会企画セッション「人間工学誌のResearch Issue投稿のお誘い

—人間工学が取り組むべき新技術・社会的課題の展望を共有しよう—

セッション・オーガナイザ: 榎原 毅(産業医科大学)

司会: 小林 大二(公立千歳科学技術大学)

14:10~15:20 一般演題II 座長: 倉岡 宏幸(産業医科大学)

1. デジタイゼーションとデジタルライゼーション—人間工学における科学コミュニケーションのResearch Issue—  
○榎原 毅, 酒井 一輝, 谷 直道, 藤原 広明(産業医科大学), 山田 泰行(順天堂大学)

2. 標準化活動における学会の役割とHCI領域標準化の動向  
○福住 伸一(理化学研究所)
  3. 自動運転車の事故の実情に関して  
○初貝 琉成, 平沢 尚毅(小樽商科大学)
  4. 手掌上に提示された触情報の位置知覚の正確さ—Perceptual Mapの構築と比較—  
○小谷 賢太郎, 奥田 啓斗, 朝尾 隆文, 鈴木 哲(関西大学)
  5. 脳卒中片麻痺に対する短下肢装具の使用中止に至る要素の分析—半構造化インタビューを用いた検討—  
○佐藤 健斗(北海道科学大学/公立千歳科学技術大学大学院), 小林 大二(公立千歳科学技術大学)
- 15:25~16:25 基調講演「情報システムと人間工学」  
講師: 平沢 尚毅 先生(小樽商科大学)  
司会: 三宅 晋司(公立千歳科学技術大学大学院)
- 16:25~16:30 閉会の辞 大会長: 三宅 晋司(公立千歳科学技術大学大学院)

## 4-2.東北支部

{支部長:高橋 信}

### (1) 支部役員会

#### 1) 第1回役員会:

- ・日時:2023年12月9日(土)14:00~14:30
- ・場所:山形テルサ研修室A室(山形市)(オンラインによるハイブリッド開催)
- ・議題:理事会報告,次回研究会,その他

#### 2) 第2回役員会:

- ・日時:2024年3月23日(土)13:00~13:30
- ・場所:東北大学青葉山キャンパス(仙台市)(オンラインによるハイブリッド開催)
- ・議題:理事会報告,次年度の研究会,その他

### (2) 支部研究会

#### 1) 第1回研究会:

- ・テーマ:医療現場における人間工学
- ・企画:山口俊憲(山形県立産業技術短期大学校)・本多薫(山形大学)
- ・日時:2023年12月9日(土)15:00~18:00
- ・場所:山形テルサ研修室A室(山形市)(オンラインによるハイブリッド開催)
- ・趣旨:主たるテーマを医療とし,ものづくり現場での生産改善の知見を活かした病院での取り組みや新型コロナ等を起因とする大きな変化・変動において医療現場でどのような対応がなされたのかについて,様々な経験を持つ研究者や実務家等と情報共有を図り,医療現場において人間工学がどのように寄与できるか,また,その知見を他産業にどう活用していけるかについて意見交換を行えればと考えております。
- ・趣旨説明:趣旨説明と講師紹介 山口俊憲(山形県立産業技術短期大学校)
- ・講演1:様々な現場における生産改善を通して得られた知見に基づく病院での取り組み  
講師 山口 俊憲 氏(山形県立産業技術短期大学校)
- ・講演2:コロナ過において医療現場はどのように対応したのか ~臨床工学技士の立場から  
講師 工藤 剛実 氏(東北文化学園大学)

#### 2) 第2回研究会(安全人間工学委員会と共催):

- ・テーマ:Learning from All Operations(全てのオペレーションからの学習)の実現に向けて
- ・企画:狩川大輔(東北大学)・高橋信(東北大学)
- ・日時:2024年3月23日(土)14:00~17:00

- ・場所:東北大学青葉山キャンパス(仙台市)(オンラインによるハイブリット開催)
- ・趣旨:複雑システムの一層の安全性向上を実現するために,より幅広い対象から,より良い学びを得ることは,産業分野の違いを超えた共通の課題と言えるでしょう.そして,昔も今も,安全に携わる誰もが頭を悩ませてきた課題とも言えるのではないのでしょうか.今回の安全人間工学委員会と東北支部による共催研究会では,この「学び」に焦点をあて,学术界と産業界からお2人の講師をお招きし,失敗からより良く学ぶことと,日々の上手くいっていることから学ぶことの2つの観点から最新の研究例や実践例をご紹介します.そして,それを踏まえて,各分野における「より良い学び」に向けた様々な課題や工夫について意見交換すると共に,人間工学ができる貢献について考える機会にしたいと思います.本研究会での議論が,「Learning from All Operations(全てのオペレーションからの学習)」の実現に向けた第一歩になれば幸いです.
- ・趣旨説明:趣旨説明と講師紹介 狩川大輔(東北大学)
- ・講演1:なぜ事故事例から学べないのか ~学習者の心理に着目して~  
講師 長谷川 尚子 氏(文教大学 人間科学部 心理学科)
- ・講演2:地上から安全運航を見守るために ~XFレジリエンスチームの取り組み~  
講師 菊池 肖子 氏(日本航空株式会社 オペレーション本部 オペレーションコントロール部)

#### 4-3.関東支部

{支部長:三林 洋介}

- (1) 第53回関東支部大会・第29回卒業研究発表会
  - 1)開催日:2023年12月2日(土)
  - 2)会場:東京都立大学 日野キャンパス(東京都日野市)
  - 3)大会長:松井岳巳先生(東京都立大学)
  - 4)参加者161名(正会員:61,非会員:9,学生:91)
  - 5)演題数件(一般演題6セッション31件,卒業研究9セッション39件,企画セッション4件)
  - 6)特別講演:1件「精神科医の社会活動(W4J)を通して将来のカウンセリングを展望する」  
W4J代表,まいんずたわーメンタルクリニック,都立松沢病院 仮屋暢聡先生
- (2)支部委員会,支部総会
  - 1)開催日:2023年12月2日(土)
  - 2)場所:東京都立大学日野キャンパス
- (3)見学会(含む講演会)
  - 1)日時:2024年3月13日(水) 13:00~15:00
  - 2)場所:スリーエムジャパンイノベーション株式会社カスタマーテクニカルセンター
  - 3)講師:山田健史氏(スリーエムジャパンイノベーション株式会社)
  - 4)基調講演:3Mにおけるイノベーションマネジメント
- (4)ニュースレターの発行:  
メーリングリストにより支部大会・総会の案内,講演会の案内を発行

#### 4-4.東海支部

{支部長:斎藤 真}

- (1) 日本人間工学会東海支部総会開催  
開催日時:2023年5月20日(土) 15:00-15:30  
開催場所:名古屋市立大学ミッドタウン名駅サテライト(対面)  
講演会:「人間工学再考」 日本人間工学会理事長 鳥居塚 崇 先生(日本大学生産工学部)
- (2) 支部役員会  
第1回支部役員会 2023年4月10日(月)18:30-19:30      オンライン(Zoom)  
第2回支部役員会 2023年5月20日(土)14:00-15:00      対面
- (3) 日本人間工学会東海支部2023年研究大会の開催

開催日: 2023年11月11日(土)

開催場所: 椋山女学園大学 生活科学部(〒464-8662 愛知県名古屋市千種区星が丘元町17の3)

大会長: 椋山女学園大学 生活科学部 増田 智恵 先生

実行委員長: 椋山女学園大学 生活科学部 井上 尚子 先生

特別講演: 「日常生活を見守るウェアラブルなインターフェイスの事例紹介」

演者: 奈良女子大学 教授 才脇 直樹 先生

概要: 一般講演24演題, 参加者70名

企画セッション:

(1) 活かそう! 人間工学専門家 (人間工学専門家認定機構)

人間工学専門家資格制度と資格取得のメリットについて

講師: 矢口博之 先生(東京電機大学)

認定人間工学専門家資格制度の改定について

講師: 岡田英嗣 先生(パナソニック(株))

認定人間工学専門家の取組事例ー公設試験研究機関での取り組み事例ー

講師: 平田一郎 先生(兵庫県立工業技術センター)

(2) 特別企画: 実践報告人間工学誌に投稿しませんか? (「人間工学」編集委員会)

講師: 牧口実 先生(トヨタ自動車株式会社)

(4) 東海支部企画

企業見学会: 日本特殊陶業株式会社 小牧工場

東海支部講演会: 「未来をつくる人間工学目標 2040(SEGs2040)

SDGs時代に求められる人間工学未来アクション・ビジョン~」

講師: 庄司 直人 先生(朝日大学)

## 4-5. 関西支部

{支部長: 小谷 賢太郎}

(1) 企画・行事等

1) 第1回見学会

日程: 2023年10月27日(金)

見学先: 神戸大学大学院 海事科学研究科 附属練習船「海神丸」

内容: 体験乗船(推進システムの紹介, 航海機器, 電子海図の紹介), 船の知識講座の受講

参加者: 9名

2) 関西支部大会

日程: 2023年12月9日(土)

会場: 兵庫県立大学姫路工学キャンパス(ハイブリッド開催)

大会長: 荒木 望 先生(兵庫県立大学)

参加者: 合計 95名 (対面 82名, オンライン 13名)

発表件数: 44件

3) 春季講演会

日程: 2024年3月30日(土) (ハイブリッド形式, 支部総会と併催)

会場: 大阪公立大学 I-site なんば

主催: 日本人間工学会関西支部, 共催: 日本人間工学会 PIE 研究部会, 大阪工業大学

講演: 「第1回関西人間工学研究情報交換会~関西の人間工学関連研究最前線!~」

3セッション, 10件の講演

(2) 会議・総会等

1) 第1回幹事会

日程:2023年7月6日(水)18:00~19:30

会場:Zoomによるオンライン開催

2) 第2回幹事会

日程:2023年10月5日(木)18:00~19:30

会場:Zoomによるオンライン開催

3) 第1回評議員会役員会合同会議(関西支部大会と併催, 本会議)

日程:2023年12月9日(土)12:00~13:00

会場:兵庫県立大学対面開催+Zoomによるオンライン開催

4) 第3回幹事会

日程:2024年2月8日(木)18:00~19:30

会場:Zoomによるオンライン開催

5) 第2回評議員会(優秀発表賞メール審議)

日程:2024年2月24日(土)

6) 支部総会

日程:2024年3月30日(土)

会場:大阪公立大学 I-site なんば

7) 第2回評議員会役員会合同会議(支部総会と併催)

8) 優秀発表賞 授賞式(支部総会と併催)

受賞者:

田河琴音(摂南大学)足アーチ補正用ハーフィンソールの効果に関する研究

西川祐生(大阪市立大学)学習しやすさの観点から見たスマートスピーカーのユーザビリティの分析

森光隼平(大阪公立大学)照明×音の融合環境における共感誘発と快適性の検討

#### 4-6. 中国・四国支部

{支部長:石原 茂和}

(1) 支部理事会開催

第1回:2023年4月10日, オンライン開催(2022年度の事業最終報告と, 支部大会のスケジュール等を討議)

第2回:2023年12月9日11:55~12:50, 広島国際大学黒瀬キャンパスにて支部大会のときに対面で開催(2024年度支部大会の開催校と, 開催準備を協議決定, 次期支部長の選出)

(2) 支部代議員会開催

2023年12月9日13:00~13:10, 広島国際大学黒瀬キャンパスにて, 支部大会の時に開催

(3) 支部総会開催

2023年12月9日13:10~13:20, 広島国際大学黒瀬キャンパスにて, 支部大会の時に開催

(4) 2023年度日本人間工学会中国・四国支部大会の開催

2023年12月9日(土)

開催場所: 広島国際大学黒瀬キャンパス(東広島市黒瀬学園台555-36)にて対面で開催

大会長: 石原恵子 先生(広島国際大学)

特別公演:「ともにしあわせになる」 演者:広島国際大学教授・前学長 焼廣益秀 先生

支部会員への情報提供として講演

「人間工学専門家認定機構 BCPC-J の活動紹介」 八木佳子先生(人間工学専門家認定機構長・株式会社イトーキ)

「認定人間工学専門家資格の改訂について」 水本徹先生(人間工学専門家認定機構・株式会社島津製作所)

一般発表: 19 件, 大会参加者 32 名(一般 23 名, 学生9名)

#### 4-7.九州・沖縄支部

{支部長:庄司 卓郎}

##### (1)2023 年度支部総会

1)月 日:2023 年 12 月 1 日(金) 支部大会中に実施

2)会 場: 折尾まちづくり記念館 (福岡県北九州市八幡西区堀川町 5-23)

3)議 題

・2022 年度会計報告

・2023 年度予算案

・その他

##### (2)九州・沖縄支部第 44 回大会

1)月 日:2023 年 12 月 1 日(金)

2)会 場: 折尾まちづくり記念館 (福岡県北九州市八幡西区堀川町 5-23) (オンラインとのハイブリット)

3)大会長: 和田親宗(九州工業大学大学院生命体工学研究科)

4)発表演題数:企画セッション3件, 一般講演18件

5)参加者:39 名(うちオンライン参加者 8 名)

6)企画セッション

・人間工学専門家資格制度と資格取得のメリットについて

松岡敏生(三重県産業支援センター), 井出有紀子(日本電気(株)), 八木佳子((株)イトーキ)

・認定人間工学専門家資格制度の改定について

水本徹(人間工学専門家認定機構, 株式会社島津製作所), 浅田晴之(人間工学専門家認定機構, 株式会社オカムラ),  
八木佳子(人間工学専門家認定機構, 株式会社イトーキ), 井出有紀子(人間工学専門家認定機構, 日本電気株式会社),  
岡田英嗣(人間工学専門家認定機構, パナソニック株式会社)

・人間工学誌のリサーチ・イシュー投稿のお誘い -人間工学が取り組むべき新技術・社会的課題の展望を共有しよう-  
榎原毅(産業医科大学教授・人間工学誌編集委員長), 村木里志(九州大学教授・人間工学誌副編集委員長)

7)表彰

・最優秀発表賞

「指先での凹凸の探索動作に着目した触覚記憶に関する基礎的検討」

小島もも (大阪大学大学院 工学研究科),

・優秀発表賞(発表順)

「VR を用いた体感型安全教育の効果に関する研究」

白石 彩花(産業医科大学産業保健学部産業衛生科学科)

「つま先歩行時の下肢筋活動強度」

高井 伶遠(九州大学 芸術工学部)



## 5.研究部会活動

### 5-1.ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長:吉武 良治}

#### (1)活動主テーマ

- 1) 今あるデータを活用した人間工学
- 2) ビッグデータ人間工学ノウハウ集の拡充と活用

#### (2)主な活動内容と手段・方法

- 1) 年間を通じて幹事間の情報交流を電子メールおよびメッセージングアプリケーション上で行う。  
主にイベントの開催検討のため、電子メールでの打ち合わせ・連絡を複数回行った。  
メッセージングアプリケーション「Slack」については、コスト高のため無償化したが、利用機会は少なかった。
- 2) ノウハウ集の基盤となるシステムについて、より拡充・活用しやすいよう、再検討していく。  
既存システムからのデータ退避を行ったが、新システムは継続検討中。
- 3) 日本人間工学会の年次大会にてシンポジウムを企画する。  
部会としての企画はできなかったが参加、協力し、情報収集を行った。
- 4) 年3回の講演会・談話会等をオンラインにて開催する。学会員外・研究部会員外は参加費の有料化を検討する。  
以下の講演会を開催した。

#### 4-1) 第3回ビッグデータ人間工学講演会(2023/07/28, 後援 人間工学専門家認定機構)

講演 Well-being と Performance を高めるデータドリブンワークプレイス

講師 八木 佳子(やぎ・よしこ)氏 株式会社イトーキ 執行役員/人間工学専門家認定機構 機構長

オンライン(Zoom)にて開催し、参加者は25名であった。

学会誌に参加報告記が掲載された(2023年59-5号)

#### 4-2) 第7回ビッグデータ人間工学勉強会(2023/10/25)

講演 ソフトウェア製品におけるユーザ利用状況の把握・分析・改善

講師 高山 清光氏(Pendo.io Japan 代表)

オンライン(Zoom)にて開催し、参加者は24名であった。

学会誌に参加報告記が掲載された(2024年 Vol.60, No.1)

#### 4-3) 第4回ビッグデータ人間工学講演会(2024/04/23)【予定】

講演 Transportation safety meets big data: 実践的な人間特性理解に使えるナチュラルスティックな運転行動データの紹介

講師 近藤 崇之 氏(早稲田大学人間総合研究センター)

オンライン(Zoom)にて開催予定。

- 5) 人間工学目的以外で収集されている各種・各所のデータ群について、人間工学の視点を提供することで新たな価値の創出を行う。

上記講演会などから新たな気づきを得ることができた。

#### (3)成果

- 1) 年3回の講演会・勉強会を実施でき、ビッグデータ活用において人間工学視点の重要性を共有できた。
- 2) 学会誌へイベントの報告記を掲載でき、成果・ノウハウ集の検討を行った。

## (1)活動目的

IEA (International Ergonomics Association) の TC (Technical Committee) である Psychophysiology in Ergonomics の日本支部として設立した研究部会である。IEA の TC が発展的に解消された現在においても、日本で独自に PIE の活動を継続している。活動内容の基盤は、従来の生理心理計測手法を人間工学分野に適用する際の方法論について議論し、新しい(特に低負担の)計測手法・解析手法に関する情報交換と課題の抽出を行うことである。ここ数年で、ヘルステックビジネスが急速に進展し、ウェアラブルデバイスやスマートフォン内蔵カメラを利用した生理計測・身体活動計測が、日常的に実践され、それに基づいたアドバイスが提供される時代となった。これらのデバイスやアプリは、生データを提供せず、計測不備に対する対応やデータの定量手法についても公開していない場合が多い。また、用いられている指標変化の解釈も実験室内の限定された条件で得られたエビデンスに基づくものもある。これらに対し、正しい知識を提供し課題を明確にすることも部会の重要な役割と位置づける。部会活動は、アカデミアだけでなく、デバイス開発者やエンジニア、データサイエンティスト、ユーザなど多様なメンバーが議論に参画できるような部会運営をめざす。

## (2)方法・手段

- 1) 本学会の全国大会、支部大会のいずれかにおいて、部会の企画セッションを行なう。多様な人の参画を得るために、可能な限りハイブリッド開催をめざす。
- 2) 近接領域の他学会の大会などでも部会企画を提案して交流の輪を広げる。
- 3) AMED 予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業「メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジー予防介入ガイドライン」統括運営グループに日本人間工学会の代表として参加し、リエゾン役を務める。
- 4) コロナ禍で実施できなかった実践を伴うワークショップや講習会などの対面イベントも、内容や方法を模索して実施を目指す。
- 5) 部会運営ミーティングあるいはメーリングリスト利用の議論により、部会運営体制を強固なものにし、部会活動をさらに活性化させるとともに、次年度の活動計画を策定する。

## (3)成果

- 1) 第 64 回全国大会(2023.9.7-8)において、講演と議論を行うハイブリッドセッション「デジタルテクノロジーを活用したメンタルヘルスケアと人間工学」を企画した。講演では、AMED 研究の代表者である榎原毅先生と谷直道先生(産業医科大学)に、AMED 活動の目標・狙い、取り組みの状況についてお話しいただいた。その後、本研究部会から、生理心理計測手法やメンタルヘルスに应用可能な技術に関して、注意すべき点や社会実装の応用可能性と課題について話題を提供した。台風の接近もあり、現地では約 20 名の参加者にとどまったものの、オンラインでは約 65 名と多くの方にご参加いただき、関心の高さがうかがえた。また、2023 年度日本人間工学会関西支部大会(2023.12.9)において、AMED 研究のメンタルヘルスに対するデジタルテクノロジー予防介入指針策定に関する宿題に取り組むべく、調査・検討した結果を紹介し、議論を進めた。主として、心拍変動指標の国内動向についての問題提起を行った。参加者は多くはなかったが、問題意識の高さから有益な議論が行えた。
- 2) 第 62 回 日本生体医工学会大会(2023.5.18-20)において、昨年度に引き続き「日常・産業場面におけるウェアラブル生体計測デバイスの活用と課題〜いつでもどこでもあなただけをめざして〜(2)」をテーマとして、オーガナイズドセッションを開催した。今回は、「呼吸」の計測に焦点を絞り、様々な呼吸計測手法と計測事例を紹介し、各手法における課題と実態を踏まえた提言をめざす内容とし、3 名から話題提供を行った。現地のみでの開催となったものの、約 80 名の参加があり、セッション後の議論を通じて、生体医工学会との交流という目的は果たせたと考える。
- 3) AMED 予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業「メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジー予防介入ガイドライン」統括運営グループに日本人間工学会の代表として部会長の大須賀が参画し、第 2 回統括運営グループ会合(2024.2.19, 第 1 回は前年度 2023.2.13)に出席し、ヘルスケアクエストについて議論した。この件について 1)に記載した 2 回の企画セッションはこの件に関するものである。
- 4) ワorkshopや講習会は実施できなかった。
- 5) メーリングリストでの企画セッション案内、企画内容に関する意見収集、話題提供の公募などを行った。本研究部会の

企画セッションについては、日本人間工学誌に学術集会開催報告を投稿するとともに、学会員以外にも広く知っていただくための一環として、部会費を活用してJ-STAGEに掲載した。

- ・ 日本人間工学会第64回大会 企画セッション デジタルテクノロジーを活用したメンタルヘルスケアと人間工学-生理心理計測の応用可能性と技術課題- (<https://doi.org/10.5100/jje.59.285>)
  - ・ 第62回 日本生体医工学会大会 オルガナイズドセッション 日常・産業場面におけるウェアラブル生体計測デバイスの活用と課題~いつでもどこでもあなただけをめざして~(2) (<https://doi.org/10.5100/jje.59.232>)
  - ・ 日本人間工学会関東支部第52回大会 企画セッション 心拍変動指標を用いたストレス評価の妥当性について -LF/HFはストレス指標と言えるのか?- (<https://doi.org/10.5100/jje.59.37>)
- 6) 新たに6名の部会員数が入会し、会員数は108名となった。(2024年3月31日現在、日本人間工学会非会員64名)※メール不通による退会2名

### 5-3.科学コミュニケーション部会

{部会長:山田 泰行}

#### (1)2023年度研究部会テーマ

- 1) 人間工学における科学コミュニケーションのコンセンサス形成
- 2) 人間工学の社会実装に向けた科学コミュニケーション企画の推進
- 3) 人間工学の研究成果を効果的に社会発信していくための方策や指針の検討

#### (2)活動内容(手段・方法)

##### 1) 部会幹事によるミーティングの開催

科学コミュニケーションのプラクティカルガイドラインやIEA人間工学のコア・コンピテンシーを踏まえながら、オンラインミーティングを通して人間工学における科学コミュニケーションの目的や意義、範囲、枠組、領域マップ、位置づけを検討した。

##### 2) 部会総説論文の投稿準備

人間工学における科学コミュニケーションの領域マップを作成し、部会総説論文の構成と執筆者を再検討した。

#### (3) 成果と展望

- 1) 部会における科学コミュニケーションのコンセンサスを会員に発信するための部会総説論文を早急に投稿したい。
- 2) 部会員の増員や他部会との連携をはかることでアクティブな活動を実現したい。

### 5-4.感性情報処理・官能評価部会

{部会長:石原 正規}

#### (1) 活動目的

感性情報処理と官能評価に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ、研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者の拡大、育成をはかる。

#### (2) 手段・方法

- 1) 講演会を本部会主催で開催した。

2024年1月20日(土)13:00-16:00/東京都立大学 南大沢キャンパス 6-402室、参加者数:約15名

部会長による挨拶後、話題提供として以下の2名の先生からご講演いただいた。

- ・菱谷 怜(東京都立大学大学院人文科学研究科 博士後期課程)「ヒトの知覚-行動系情報処理におけるリスクの空間的表象について」
  - ・菅井敏行(県立広島大学保健福祉学部 教授)「看護がもつ多様性を整理する」
- 2) 第32回システム大会[2024年3月15(金), 16日(土)]の感性・官能セッションにおいて, 若手研究者による発表(5件)を組織, 支援した。尚, 詳細はシステム大会部会より報告。
- 3) 幹事会の開催: オンライン, メーリングリストを活用し, 部会活動について議論, また, 情報共有, 審議を行った。

### (3) 成果及び展望

- 1) 講演会を開催し, 看護師・保健師資格を有する2名の講演者から看護医療分野に関わる研究の広がりを学ぶ機会を得た。また, 新規の参加者を部会メーリングリストに登録し, 研究者ネットワークを拡充した。
- 2) システム大会に参加し, 若手研究者の発表をサポートした。また, 大会参加者との交流を通し, 部会活動のネットワークを広げた。
- 3) 講演会/研究会等開催のための会場選定(場所, 使用料金)についてリサーチを行い, 今後の活動可能性を模索した。また, メーリングリストの不具合を解消し, 再整備を行なった。

今後も引き続き, 講演会/研究会を開催し, 知識や経験の情報共有を通しての社会貢献につなげたい。また, 若手の研究や, 萌芽的研究に関する発表・(指導的な指摘も含めた)議論ができる場を提供していきたい。

## 5-5.衣服人間工学部会

{部会長:土肥 麻佐子}

### (1)活動目的とテーマ

人と衣服と環境の関連に関わる諸問題について基礎から応用まで多角的に取り上げ, 研究者どうしの情報交換と研究の活性化および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに, この領域の研究者の拡大, 育成をはかることを目的とする。2012年度より「グリーンファッションに関する研究」をテーマにした活動を継続している。具体的には, 衣服のサプライチェーンの側面より, 環境に配慮しかつおしゃれな着装的あり方, 廃棄ゼロを目指した衣服の構造・デザイン, 衣服材料の使い方, 衣服のリサイクル, フェアトレードなど, SDGs達成への貢献を視野に入れた研究活動, 啓蒙活動に努めている。

### (2)活動内容

#### 1) 研究例会

衣服の側面より持続可能な社会について考えるための話題提供と知識の啓蒙を目的に, 毛織物生産における取り組みや伝統的な技を主な題材とした例会を2回開催した。第1回例会は一般公開のオンライン講演会, 第2回例会は対面での講演と工場見学とした。

#### 第1回例会

- ・開催日:2023年11月18日(土)16:30~18:00 zoomによる開催
- ・講演者: REDAJAPAN 株式会社 代表取締役 上野伸悟氏
- ・演題: イタリア生地メーカー「REDA」のサステナビリティに対する取り組みとファッション業界の環境問題への提言
- ・参加者:衣服人間工学部会部会員と一般 約30名
- ・概要: 1865年に毛織物が有名なイタリア北部に設立された老舗生地メーカーであり, 生産販売においてイタリアトップクラスのメーカーであるREDAが積極的に行っているサステナビリティ・トレーザビリティの取り組み, ファッション業界の環境汚染問題について具体例をあげてわかりやすく解説していただいた。REDAの取り組みは羊が育つ土壌開発から羊毛生地生産, 消費者による洗濯時の環境負荷までを視野に入れたものである。水や土といった自然との関

連も含め、持続可能な社会の構築のために消費者として何ができるかを考えるための契機となり、次世代に伝えるべき内容が明確になったとの声が多く寄せられた。

## 第2回例会

・開催日:2024年3月 8日(金)10:30~18:00

・見学会のテーマ:世界三大ウール産地尾州のサステイナブルな技を訪ねる

・参加者 15名

・講演・見学内容

-瀧定名古屋株式会社(繊維製品の企画開発,仕入れ,生産・販売までを手掛ける商社)

「リサイクルウール」についての概要と尾州地区での取り組みについての講演

-株式会社桑原(衣料・ファッション製品の品質維持・向上のための検品・修整会社)

修整業での蓄積された技についてのミニ講座と工場見学

-四葉織房(ウール織物工場)

ションヘル織機で時間をかけて織る尾州の高級ウール織物工場見学

-株式会社萩原整毛(ウール回収衣料の分別工場)

「リサイクルウール」の原料となる ウール 95%以上の回収衣料を分別に色分けなどする工場見学

-飯田整毛(反毛工場)

「リサイクルウール」の原料として、回収衣料を反毛機もかけワタにする工程を扱う工場見学

・概要:昨年度の例会で講演していただいた(株)桑原において、アパレルの品質を維持するための検品業務と品質を向上のための熟練の技をもつ修整工場を見学した。また、我が国で伝統的に行われているリサイクルウールの生産について、その概要を知るとともに、反毛による羊毛繊維素材生産の一連の過程を見る工場見学を実施した。反毛は羊毛の原材料がほとんどない我が国における独自の羊毛素材の生産手法である。修整や反毛の詳細を知る機会が少ないことから貴重な企画となった。見学先の工場の規模が小さいため、少人数での実施となったが、参加者よりは大変好評であった。

## 2) 役員会

Zoomによる役員会を4回開催した。他にメール会議および見学会の企画担当者間での打合せを頻繁に行った。

・第1回役員会:2023年 6月3日(土)

・第2回役員会:2023年 7月13日(木)

・第3回役員会:2023年 10月6日(金)

・第4回役員会:2023年 11月18日(土)

## (3) 成果と展望

ここ数年コロナ禍への対応として、各界のエキスパートの方を講師にお招きしたオンラインでの公開講座を主たる活動としてきた。オンライン講演会の成果としては、時間的な制約が少ないため幅広いご専門の演者に講演していただけたこと、広範な地域からの参加者を得ることができたことである。これまでの講演会の内容をアーカイブすることも検討中である。今年度は対面での見学会も実施することができ、生産者や見学者間で対話しながら情報を共有することの意義も再確認した。引き続き、オンラインによる公開講演会と対面での見学会の両輪での活動を行いたいと考えている。一方で衣服人間工学部会に興味をもってくださる方々にどのようにして部会員として定着していただくかという点が今後の課題である。

## (1)活動目的とテーマ

多くの医療従事者が痛み=筋骨格系障害 (MSDs)を我慢しながら働いている現状がある。本研究部会は、「すべての医療従事者を守る快適な労働環境をつくる」ことをパーパスに掲げ設立された。ステークホルダ関与、システムズアプローチ、バックキャスト等、IEAの改訂コア・コンピテンシーを意識し、医療従事者、学会員、企業の方々と活動を推進している。

## (2)手段・方法

- 1) 医療労働関連 MSDs 予防のためのツール・教材の検討・開発
- 2) 医療労働関連 MSDs に関する教育機会の提供 (研究会の開催)
- 3) 関連学会・研究部会などとの共同企画の実施および連携
- 4) 医療労働関連MSDs 軽減のグッドプラクティス・機器情報の収集と発信
- 5) その他, 本研究会趣旨に必要と思われる諸活動の実施

## (3)成果

昨年に続き、医療労働に関する話題提供と議論を目的とした一般公開の研究会「医療 MSDs 懇話会」を開催し、海外の動向も含め情報共有・活発な議論を行った。研究部会ロゴ、ホームページを作成し、2024 年 1 月に研究部会員を対象とした「医療労働関連 MSDs 研究部会の今後の取り組みに関するご意見・ご要望～研究部会員へのアンケート」を実施し、研究部会 HP に公開した。また、2023 年に研究部会員をコアメンバーとして、日本消化器内視鏡学会に附置研究会「内視鏡関連 MSDs 予防のための人間工学的対策研究会」が設立され、様々な医療分野への啓発・連携のモデルケースとして期待されている。

### 1) 第 2 回 医療 MSDs 懇話会

- ・開催日:2023 年 4 月 13 日(木) 17:00~18:30 zoom による開催
- ・座長・趣旨説明 浅田晴之先生(株式会社オカムラ)
- ・話題提供 1 鈴木浩之先生(富士フィルムヘルスケア)
- ・演題: 医療機器ユーザビリティと超音波検査者への提言
- ・話題提供 2 長谷川 智之先生(三重県立看護大学)
- ・演題: 心肺蘇生における人間工学的検討
- ・閉会挨拶:下村義弘先生(千葉大学)
- ・参加者:本研究部会員と一般 95 名
- ・概要: 「MSDsを軽減する医療機器ユーザビリティ」というテーマをもとに2名の専門家から話題提供が行われた後、参加者全員でディスカッションが行われた。詳細は日本人間工学会誌 2023, Vol 59, No3, p131-133に、学術集会開催報告として掲載。

### 2) 第 3 回 医療 MSDs 懇話会

- ・開催日:2023 年 7 月 12 日(水) 17:30~19:30 zoom による開催
- ・座長・趣旨説明 松崎一平(山下病院)
- ・話題提供 1 下村義弘先生(千葉大学)
- ・演題: 製品デザインが筋骨格系に与える影響
- ・話題提供 2 服部寿門先生(服部整形外科)
- ・演題: 筋骨格系障害とは一整形外科医の立場から
- ・閉会挨拶: 鈴木一弥先生(労働安全衛生総合研究所)
- ・参加者:本研究部会員と一般 51 名
- ・概要: 産業保健人間工学会(協賛)、日本産業衛生学会作業関連性運動器障害研究会(協賛)、人間工学専門家認定機構(後援)の専門家も含めて参加頂き、2人の演者より理論と実践という異なる側面で話題提供が行われ、「筋骨格系障害(MSDs)を深く学ぶ」をテーマに、活発な議論が行われた。懇話会の内容は日本人間工学会誌 2023, Vol 59, No4, p183-184に掲載。

### 3) 日本人間工学会第64回大会シンポジウム

- ・開催日:2023年9月8日(金)10:40~12:10 千葉大学
- ・オーガナイザー 松崎一平,司会 鈴木浩之先生
- ・講演1 外岡学志先生(アルケリス株式会社)
- ・演題:アルケリス 世界から立ち仕事のつらさをなくすアシストスーツ
- ・講演2 長谷川 智之先生(三重県立看護大学)
- ・演題:心肺蘇生足趾支持台
- ・講演3 荒川 智行先生(アークテック株式会社)
- ・演題:つかみんぐ 清潔な器械台車の搬送器具
- ・概要:「MSDsを軽減する人間工学製品を体験する」をテーマに,3名の部会員から異なる視点の人間工学製品を紹介,製品紹介(製品概略と使用方法)の後,現地参加者に製品の試着・使用体験をしていただき,製品化に至るまでの経緯や研究,論文などが紹介され,活発な議論が行われた。

### 4) 第4回 医療MSDs懇話会

- ・開催日:2024年1月25日(木)18:00~19:15 zoomによる開催
- ・当番世話人 常見麻笑先生(山下病院),斎藤 真先生(三重県立看護大学)
- ・話題提供 Wanpen Songkham 先生(Chiang Mai University)
- ・演題: HUG Program: A Participatory Ergonomics Intervention to Prevent Musculoskeletal Disorders Among Nursing Personnel
- ・参加者:本研究部会員と一般 35名
- ・概要:産業保健人間工学会,日本産業衛生学会作業関連性運動器障害研究会,アシストスーツ協会様の協賛で開催され,海外の先生から看護職員に対するMSDs予防のための参加型人間工学に関する話題提供が行われ,「タイにおける看護の労働実態を知る」をテーマに活発な議論が行われた。懇話会の内容は日本人間工学会誌に掲載予定である。

### 5) 世話人会

オンライン(Zoom)による世話人会議を下記の通り開催した。その他,打ち合わせなどのメール会議を適宜行った。

- ・第3回世話人会議:2023年2月22日(水)18:00-19:15  
提言書等アウトプットの具体的な活動計画をすすめるとともに,研究部会活動期間の前半はパーパス実現のための仲間づくり,組織作り,医療現場の課題洗い出しのために医療MSDs懇話会を進めること等が議論された。
- ・第4回世話人会議:2023年5月31日(水)17:00-18:15  
人間工学グッドプラクティス データベースの活用,懇話会有料化,JES第64回全国大会シンポジウム企画,医療関連学会様や産業保健・衛生団体様との連携強化などが議論された。
- ・第5回世話人会議:2023年10月12日(木)18:00-19:10  
部会員投票で作成されたロゴの確認,HP進捗状況,超音波検査者のシステムティックレビューの紹介,WMSDsという用語の成立背景,多様性を考慮した世話人(女性)メンバーの追加方法の検討,規約・有料化(現在無料)の進捗状況を共有した。第4回懇話会の内容(看護・介護士の労働実態と対策),日本消化器内視鏡学会附置研究会の発足,部会員アンケート調査の作成などが議論された。
- ・第6回世話人会議:2024年2月21日(木)18:00-19:20  
世話人メンバー追加の進め方,部会員アンケートの解析と共有方法,全国学会企画,第5,6回医療MSDs懇話会の企画,部会規約策定,HP教育コンテンツの拡充などが議論された。

### 6) 部会員

日本人間工学会会員を問わず,医療従事者,学会員,企業の方々へ幅広く案内をすることで本学会員30名を含む部会

員 69 名(2024 年3月)の組織となっている。世話人会・メール会議にて密に協議し、懇話会での活発な議論、組織拡充を推進することができた。

#### (4)問題点・展望

新たな研究部会 HP が作成され、関連学会・研究部会などとの共同企画の実施および連携、医療労働関連 MSDs 軽減のグッドプラクティス・機器情報の収集と発信を進める環境が整った。部会のアウトプットとして、医療労働関連 MSDs 予防のためのツール・教材の検討・開発を計画的にすすめていくために、HP 教育コンテンツ、規約の整備とともに、さらに学会内だけでなく、外部団体、医療従事者、行政との連携を意識して活動を推進していく。

## 5-7.航空人間工学部会

{部会長:田中 敬司}

### (1)テーマ

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、本年度は、他分野を含む幅広いヒューマンファクター研究にかかわる進展、事故事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

### (2)方法・手段

#### 1)第 104 回例会(公開講座)

前年同様以下内容で例会を開催した。

<例会概要>

日時:2023 年 6 月 16 日(金)13:00-17:10

形式:対面式

場所:野村不動産天王洲ビル 2 階ウイングホール

講演内容:

- ①「空港制限区域内におけるレベル 4 相当自動運転の導入に向けた取組」JCAB 谷 拓歩様
- ②「MCC (Multi Crew Co-operation) 訓練」ANA 水野 昌彦様
- ③「航空医学実験隊における研究紹介」航空医学実験隊 伊奈 伸一郎様
- ④「Crew Performance について ~プレイヤーとチームの視点か~」JAL 和田 尚様

参加者数:83 名

#### 2)施設見学会

2022 年度は自動車業界、2019 年度は鉄道業界(2020 年、2021 年は新型コロナウイルス感染により未実施)と、ここ数年は航空関係以外の業界の施設見学を行ってきた。今年度は、原点回帰で航空業界の取り組みを学ぶという事で、2019 年度に新たに開設された全日本空輸(株)様の訓練、安全教育施設である ANA Blue Base (ABB) の見学を実施した。施設側の受け入れ人員の関係から最大 20 名迄ということで航空人間工学部会の委員、幹事およびその所属会社で募集を行った。

<ABB 見学実施概要>

日時:2024 年 2 月 26 日(月)

場所:ANA Blue Base (ANA 安全,教育総合施設 東京都大田区)

参加人数:19 名

見学内容:客室訓練施設,安全啓発センター

#### 3)部会ホームページの運営



インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示を行った。

#### 4) 委員会・幹事会の開催

##### A. 委員会

今年度5月、3月に臨時委員会を開催し、緊急決議案件の対応を図った。その他例年通り2回の委員会を開催し、年度の計画、実施、次年度の計画などの決議を行った。

① 第76回委員会(2023年5月26日, 11:00-12:00), Zoomによるオンライン形式

議題:

- ・今年度の委員会メンバー確認, 2023年度計画予定
- ・2023年度予算
- ・謝礼金の支払いについて
- ・委員の退任について

② 第77回委員会(2023年12月1日, 11:00-12:00), Zoomによるオンライン形式

議題:

- ・2023年度収支状況
- ・第104例会(公開講座)開催報告
- ・第105回例会(公開講座)に向けた準備
- ・2023年度下期活動(施設見学会)について
- ・部会継続条件の実施状況
- ・今後の予定

③ 第78回委員会(2024年3月21日, 10:30-11:00), Zoomによるオンライン形式

議題:

- ・部会長選出
- ・供花費用支出確認

④ 第79回委員会(2024年3月21日, 11:00-12:00), Zoomによるオンライン形式

議題:

- ・施設見学会振り返り
- ・第105回例会(公開講座)開催準備
- ・例会冊子の電子化について
- ・事業報告・事業計画
- ・今後の予定

##### B. 幹事会

3回(4, 11, 3月)開催

幹事会を開催し、例会及び見学会の開催可否や形式等について議論を行い、部会活動を円滑に進めるとともに、会員の意見を部会活動に反映させることができた。

#### (3) 成果

今年度もコロナ前と同等の活動を実施することができた年であった。例会(公開講座)は、活動目的を重視し対面式にて行ったことにより、講演に対する活発な質疑、会場での会員同士の会話、情報共有が行われている様子がうかがわれた。また、例会後に、会社の安全についての新たな取り組みの参考とするために、講演者と直接連絡をとりたいとのご要望も受け、直接連絡をとっていただくような動きにもつながったことから、当研究部会の活動目的である会員相互の情報交換の場を提供することができたと考えられる。

見学会では、最新の訓練施設を見学させていただき、会社のポリシーとしてより実際の状況に近い中での訓練を重視し

ていることが垣間見られ、新たな技術も取り入れた効果的な訓練の工夫をしていることが実感できた。

## 5-8.アーゴデザイン部会

{部会長:高橋 克実}

### (1)目的と活動テーマ

本部会は、モノづくりやサービス開発のために人間工学とデザインが融合した学際分野(アーゴデザイン)に対して、産学共同で研究を行い情報発信することを目的としている。2023年度は「「ビジョンと社会実装」~ビジョン創りとこれを社会に実装するための方法論の研究~」を活動テーマに、これまで研究してきたビジョン提案型デザイン手法との関係を明快にし、「ビジョンと社会実装」についての研究と議論をアーゴデザインの視点から実施してきた。

### (2)部会運営と主な活動内容

- ・部会員：78名(正会員57名,学生会員21名,2024年3月31日現在)
- ・活動概要：2023年度は、日本人デザイン学会春季研究発表大会1回,コンセプト事例発表会1回,日本人間工学会第64回大会1回,FXフォーラム1回,合宿研究会1回,幹事会4回等の様々な活動を実施してきた。以下に主な活動を記す。

#### 1) 日本デザイン学会春季研究発表大会 (2023年6月25日)

於:芝浦工業大学

<オーガナイズドセッション4:テーマ>ビジョンと体験設計

パネリスト:山崎和彦氏(武蔵野美術大学),早川誠二氏(HCD YOROZU Consulting),  
上田義弘氏(y2.DesignConsulting),郷健太郎氏(山梨大学),柳田宏治氏(倉敷芸術科学大学),  
高橋克実氏(ホロンクリエイト株式会社)

#### 2) 2023年度コンセプト事例発表会開催 (2023年8月21日)

於:芝浦工業大学 参加者:60名

口頭発表 4件

ポスター発表 23件

ワークショップ:「夏の楽しいイベント」を考える

川合俊輔氏,村健太氏,石井萌氏(株式会社STYZ(インクルーシブデザインスタジオ『CULUMU』))

#### 3) 日本人間工学会 第64回大会 企画シンポジウム (2023年9月7日-8日)

於:千葉大学けやき会館

<テーマ>ウェル・ビーイングと人間工学

アーゴデザイン研究の発展経緯と今後の活動テーマに関する説明 郷 健太郎氏(山梨大学)

Well-beingの社会実装事例について

Well-beingとユニバーサルデザイン 榊原 直樹氏(清泉女学院大学)

Well-beingを高める産学官民共創デザイン 相野谷 威雄氏(東京工科大学)

Well-beingを高めるビジネスのデザイン 上田 義弘氏(y2.DesignConsulting)

Well-beingを高めるデータドリブンワークプレイス 八木 佳子氏(株式会社イトーキ)

#### 4) HCD-Net理事長・副理事長講演会 + Future Experience(FX)フォーラム開催 (2024年2月2日)

於:株式会社島津製作所 本社 参加者:117名(対面:35名,オンライン:82名)

発表4件を実施。

- ◆「体験実装を促進する MVP の国際的な枠組 Corpex JV ～体験設計開発共同体の小ロット生産と評価でイノベーションの社会実装へ～」  
高橋 克実氏(ホロンクリエイティブ株式会社)
- ◆「BtoB の社会実装の事例」  
鈴木 修平氏(X デザイン学校/KDDI 株式会社)
- ◆「全国民が窓口行政サービスをオンラインで利用可能に、公共 DX の社会実装に向けた取り組み」  
武石 惇平氏, 吉井 誠氏(シンプレクス株式会社)
- ◆「ビジョンと社会実装 多様なアプローチと事例」  
山崎 和彦氏(株式会社 X デザイン研究所/武蔵野美術大学ソーシャルクリエイティブ研究所)

#### 4) 2023 年度合宿研究会(2024 年 3 月 15 日-16 日)

於:湘南国際村センター 参加者:26 名

<テーマ>「ビジョンと社会実装」

ビジョンと社会実装の事例(講演):2件

- ◆「ビジョンと社会実践の事例:和歌山県産ラム酒のプロジェクト」  
善利 光雅氏(truck 合同会社代表)
- ◆「ビジョンの社会実装を事業につなげる」  
川合 俊輔氏(CULUMU/株式会社 STYZ)

参加者全員によるグループでの討論を実施。

4グループそれぞれの討議の結果,ビジョン提案と社会実装アプローチを発表した。

#### 5) その他の活動

- ・FX\_WG 活動中。(担当幹事:高橋, 上田, 石山, 笠松, 郷, 西内, 早川, 細田, 山崎)
- ・UD 実践ガイドライン WG 関連活動休止中。(担当幹事:山崎, 柳田)
- ・アーゴデザイン未来 WG 活動中。(担当幹事:石山, 笠松, 西内, 西平)
- ・ホームページ運用。(担当幹事:早川, 高橋, 吉井)
- ・学生会員に対する指導, 啓蒙を実施。(担当幹事:笠松, 西内, 細田, 吉武)
- ・アーゴデザイン部会メールマガジンの発行。(担当幹事:石山)
- ・会員及び幹事会メーリングリスト及び, ホームページホスティングを ergo-design.org にて運営。
- ・Slack による運営情報交換。
- ・コロナ禍の影響で見学会は休止中。

#### (3)成果と展望

- ・社会, 環境面からもデザインを考えるフューチャーエクスペリエンス(FX)の概念を提唱し, ビジョン構築の手法を考察し, FX の実践的な手法や社会実装について検討を行ってきた。
- ・今後は, FX のために進化させた Experience Vision の手法を教育の場に広げ, デザインやビジネス教育の現場でどのように指導していくかの検討を進めていきたい。

## (1) テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから、他国に比べて多くの人が海に携わった仕事に従事している。更に、仕事として関わりが無くても、非常に多くの人が趣味としてマリンレジャーを楽しんでいる。しかしながら、これら海事の分野において、人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない。そこで、本研究部会の活動を通して、人間工学を海事分野に広く普及させ、海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる。

## (2) 手段・方法

### 1) 企画セッションの実施

2023年12月2日及び12月9日に開催された日本人間工学会関東支部大会及び関西支部大会にて、それぞれ下記のテーマに関して企画セッションを実施した。

(関東支部大会)

テーマ: 船舶運航支援の現状と未来

(関西支部大会)

テーマ: 人間工学とつながる海・船に関する研究

### 2) 見学会の開催

2023年度においては、自動・自律化船のシステム評価のために開発された海上技術安全研究所の総合シミュレーションシステムの見学会を予定していたが、公開時期の延期のために次年度に持ち越すこととなった。

### 3) セミナーの開催

学会本部との共催により【評価グリッド法による感性価値創造セミナー】をオンラインにて2024年1月17日(水)16時～18時に下記のとおり実施した。

【趣旨】近年、様々な分野で自動化や自律化が進んでいるが、その基盤となるのは“人”であり、“人の評価”となります。また、個性である「感性」も重要な要素となり、その評価手法が必要かつ重要となります。海事人間工学研究部会では、日本人間工学会と共催で「感性価値の構造化・可視化」をテーマに取り上げ、評価グリッド法の概要と評価グリッド法を応用した感性価値創造の事例をシェアし最新の感性研究について学びたいと思います。

【内容】1. 評価グリッド法と感性価値創造 (関西学院大学工学部教授/感性価値創造インスティテュート所長 長田典子) 評価グリッド法は、ユーザの潜在的な評価構造を引き出すためのインタビュー調査手法です。評価グリッド法の概要と、評価グリッド法を応用した感性価値創造の事例を紹介します。また大規模言語モデル(MML)を用いた評価グリッド法自動化システムについても概説します。

2. 評価グリッド法を用いた価値構造可視化と応用 (関西学院大学感性価値創造インスティテュート特任准教授 杉本匡史) 評価グリッド法の具体的な進め方について、介護機器の使用感や観光地の価値といった、複数の事例を挙げて説明します。また評価グリッド法自動化システムを利用した価値構造可視化方法についても解説します。

### 4) 幹事会の開催

2023年12月2日に東京都立大学(東京都日野市)で第1回幹事会を2023年12月9日に兵庫県立大学(兵庫県姫路市)で第2回幹事会を開催し、2023年度の事業遂行状況についての検討及び2024年度の本研究部会の事業計画(案)の策定をした。

## (3) 成果

学会の企画セッションを通じて、最新の海事関連研究に関する情報を発信し、他分野の人間工学専門家や研究員と海事分野における人間工学について議論することができた。また、セミナーを通じて海事人間工学のみならず人間工学に関わるメンバーに有益な知識・実践の共有を行うことができた。

## (4) 展望

人間工学を専門とする研究者や技術者が海事分野における研究課題に関心を持てるよう、さらに魅力的な企画セッション、見学会、座談会等を開催する。更に、当研究部会の活動を広く知ってもらうために、当学会以外にも積極的に情報を発信して行く。

## 5-10.ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長:井出 有紀子}

### (1)テーマ

第2期(2023~2027)では、在宅勤務やオンライン会議などのオフィスワークでの新しい働き方や環境、ポストコロナ時代の働き方や定年延長や人生100年時代、多様性雇用を見据えて、働く人々の健康と安全を守るための人間工学について研究するとともに、知識の普及を図ることを目的とする。

### (2)活動内容

- 1)幹事会&部会 2023年4月11日(Zoom), 2023年6月21日(対面), 2023年10月5日(対面), 2024年1月17日(Zoom)の4回, 幹事会を開催した。
- 2)第64回大会における企画セッション「高齢労働者の安全と健康」(9月7日)
  - ①「高齢者の労働災害防止対策～一人ひとりの体力や健康の状況を踏まえる～」  
高木 元也(労働安全衛生総合研究所)  
※企業の取組事例として、マイクロストーン社、ハンドレッドライフ社の発表を含む。
- 3)見学会の実施  
10月5日, (株)高齢社を見学し, 社長からの会社説明, 高齢の方の特性や派遣での留意事項など経営目線も交えて議論をした。参加者は12名。
- 4)セミナーの共催と人間工学専門家機構(BCPE-J)への会報執筆  
10月30日, 人間工学専門家認定機構 イベント企画「パラスポーツと義肢装具」(対面)を共催し, 「会報・人間工学専門家認定機構 Vol.74」に報告。  
★タイトル:人間工学専門家認定機構イベント企画「パラスポーツと義肢装具」  
【講演1】「立位テニスの世界と人間工学の関わり」  
岸 俊介氏((一社)日本障がい者立位テニス協会)  
(会報報告者 横井 元治(本田技研工業(株)))  
【講演2】「障がい者の活動を支える技術」  
佐藤 健斗先生(北海道科学大学)  
(会報報告者 浅田 晴之((株)オカムラ))

### (3)成果と展望

2023年度は、第64回大会の企画セッションでの発表や、高齢社の見学と議論によって、主に高齢者特有の特性を踏まえ、働き方で気を付ける点などを知ることができた。また、パラスポーツとそれを支える義肢装具技術の講演により、体の一部としての道具のあり方を知ることができ、より良い働き方へのヒントを得ることができた。

今後も多様な働く人々の健康と安全を守るための人間工学について研究するとともに、社会に認知されるように知識の普及を図っていきたい。

## 5-11.システム大会部会

{部会長:衛藤 憲人}

### (1)活動テーマ:

本部会は、感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会が中心となり、人間工学システム連合大会と称し発足した。現在システム大会部会として33年にわたり継

続的な活動を行なっている。1993年以降、年一回、三月に開催される学術集会(システム大会)は、近年4回、新型コロナウイルス感染拡大状況によりZoomを用いたOnline形式であったが、今回ハイブリッド(対面+オンライン)形式にて開催した。対面の活発な議論に加え、遠方より気軽に参加できる本開催スタイルは、非常に好評であった。事実、二日にわたり開催した大会は、のべ120名を超える参加者を集め、極めて成功裏に終えるができた。さらに本年度も、本大会をきっかけに日本人間工学会の入会希望者を得ることができ、小さいながらも学会への貢献を行えたものとする。同大会開催に向けて複数回の幹事会を開いたので報告する。

## (2)部会運営と主な活動内容

### ○システム大会幹事会

#### ・第1回システム大会幹事会

日時:2023年7月8日(土)15:00~16:00

方法:ZoomによるOnline会議

議題:第31回システム大会報告・第32回システム大会開催方法の討議等

#### ・第2回システム大会幹事会

日時:2023年9月2日(土)15:00~16:00

方法:ZoomによるOnline会議

議題:夜話,セッション,広報,その他部会運営について

#### ・第3回システム大会幹事会

日時:2023年11月11日(土)15:00~16:00

方法:ZoomによるOnline会議

議題:大会開催形式(対面・オンライン・ハイブリッド)最終確認

#### ・第4回システム大会幹事会

日時:2024年3月2日(土)15:00~16:00

方法:ZoomによるOnline会議

議題:システム大会プログラム作成および大会開催最終確認

## (3)展望:

2023年度より新たな若手幹事を迎え、より活発な活動を企図している。加えてより開かれた学会を目指し、さらなる他分野の研究者の参加、英文機関紙(Journal of Ergonomic Technology: JET)の発行を推進し、JES発展に向けて積極的展開を目指したい。

## IV.2024年度事業計画(案)

### I. 事業計画

{総務担当:河合 隆史, 申 紅仙}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会は、人間工学を実践する学術団体として、健やかな人間の営みと、物理・組織・社会環境が調和した持続可能な社会システムの構築に寄与することを目指す。
- (2) 第65回大会を小林大二大会長のもと2024年6月22日(土)~23日(日)に公立千歳科学技術大学(北海道千歳市)で開催する。
- (3) 2024年定時社員総会を2024年6月22日(土)に公立千歳科学技術大学において開催し、2023年度事業報告・収支決算、2024年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第66回大会を榎原毅大会長のもと2025年5月22日(木)~23日(金)(予定)に北九州国際会議場(予定)にて開催することとし、準備を進める。
- (5) 理事会を年4回以上開催する。
- (6) 学会主催の有料セミナーを開催する。
- (7) ホームページ、ニュースレター、SNS等のオンラインに加え、大会や講演会など実地における草の根広報活動を推進することで人間工学の普及に努める。
- (8) 学会誌「人間工学」の運営方針「投稿したい、読みたいジャーナルを目指して」を掲げ、これまで取り組んできた実践系論文の投稿推進策を軌道にのせる。学会誌「人間工学」の第60巻2~6号および第61巻1号の計6冊を発行する。
- (9) 認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年2回実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント(新名称:認定人間工学プラクティショナー)の各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会、セミナー等を開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (10) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め、得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、総務担当、財務担当、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、学術担当、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、若手支援委員会、企業活動推進委員会、国際誌検討委員会、普及委員会、戦略・将来構想委員会、PSE委員会、利益相反・倫理委員会、人間工学研究標準化推進委員会、第65回大会担当および第66回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (11) 新たに5つのプロジェクト事業を行う。
- (12) 支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。ビッグデータ人間工学研究部会、PIE 研究部会、科学コミュニケーション部会、感性情報処理・官能評価部会、衣服人間工学部会、医療労働関連 MSDs 研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、海事人間工学研究部会、ワーク・アノミクス研究部会、システム大会部会の計11研究部会で活動を行う。
- (13) IEA(国際人間工学連合)および ACED(アジア人間工学評議会)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEA からの情報の国内展開、および JES 情報の海外発信などを行う。
- (14) ISO/TC159(人間工学)分野の規格の作成・審議および人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。TC159/SC1, TC159/SC3, TC159/SC4, TC159/SC5関連の国際会議に出席し、人間工学規格の策定や審議に貢献する。サービス人間工学に関する国際標準について規格提案に資する活動を行う。

- (15) 2024年度各賞の授与式を行う。また、2025年度各賞の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。各表彰制度の公正かつ効率的な運営および国際表彰への対応の仕組みの検討・整備を進める。
- (16) 日本学術会議、学術政策等の動向をウォッチするとともに、関連する他学会等との連携のための窓口として活動を継続して行う。
- (17) 若手会員を支援するため、若手会員の研究やキャリア形成を支援することを目的とした活動を行う。
- (18) 企業ニーズに基づいたイベント/セミナーを企画～実行することで、参加企業の取組み活性化を図る。
- (19) 日本人間工学会の特色ある公式英文誌の創刊を目指し、第7-8期で検討を進めた方向性のブラッシュアップおよび運用計画を新体制の下、再検討する。
- (20) 「すべての人に人間工学が寄り添うやさしい社会」を実現するために、普及委員会は、JES内部ステークホルダーと協働し、企業・教育現場・各団体組織・自治体・行政といった外部ステークホルダーを巻き込みJESを活性化するための戦略的・効果的な普及活動を行う。
- (21) AI、メタバースなど技術環境の変化、デジタル、サービスと人間の関わりが重要視される産業変化、少子高齢化の社会変化に応じた人間工学の将来的な役割を検討し、関係省庁のステークホルダーを交えた議論を行う企画セッションを実施する。
- (22) IEA改訂コアコンピテンシーに基づき、JESとBCPE-Jが連携しながら人間工学の教育、普及、実践のサイクルを確立することを推進する。
- (23) 利益相反に関する規程の整備ならびに規程に基づく運用／当学会の倫理指針について国の指針と照合させるべく検討する。
- (24) 標準化活動の枠組みを活用した、JES会員が実施する研究の社会実装の促進および支援する。
- (25) 学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすと同時に、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。



## 2. 委員会・担当活動

### [常設委員会・担当]

#### 2-1. 広報委員会

{委員長:松田 文子, 副委員長:下村 義弘}

- (1)理事会, 支部, 委員会, 研究部会, 事務局などと連携・協力のもと, ホームページ, JES ニュースレターを中心に広報活動を推進する. 重要ニュースのお知らせ, 学会主催/協賛等のイベント案内, 社会発信等を, ホームページに加えて, 各世代に協力を得ながら SNS も活用していく. また, 必要に応じて特設ページの運用も行う.
- (2)グッドプラクティスデータベース (GPDB) の取り組みを継続するとともに, 掲載事例を増加させるために, 全国大会だけでなく, 支部大会や講演会, CPE の会合などで積極的に呼び込む.
- (3)「人間工学の総合データベース (ERGO Directory)」の更新, 拡充を図るために, 全国・支部大会や講演会, CPE の会合などの機会を活用する.
- (4)サステナビリティを考えこれまでの活動を精査しつつ, 各種学校 (大学, 高校, 専門学校) に人間工学のパンフレットやポスターを配布するなど, 人間工学の体系化・教育・普及促進に向けて関連する新領域も含めた広報を行う.

#### 2-2. 編集委員会

{委員長:村木 里志, 副委員長:近井 学}

- (1)学会誌「人間工学」の年6号分の編集・発行業務を行う (紙媒体およびJ-Stage掲載).
- (2)学会誌「人間工学」の運営方針を「投稿したいジャーナルを目指して」から「投稿したい, 読みたいジャーナルを目指して」に発展させ, 「理論」と「実践」の両輪を扱うジャーナルとして特に「実践」系の論文の投稿促進策を展開する.
- (3)投稿者への利便性向上, 迅速な審査体制の整備など, 編集委員会業務の推進にあたり, 各種委員会との協力・連携をはかる.
- (4)編集委員会を年4回程度, 査読委員会を年2回程度開催する.
- (5)60周年記念の特集記事として理事が考えるリサーチ・イシューを編集・運用する.
- (6)表彰委員会との協同による査読者表彰制度の運用 (トップ10%査読者賞) 等を行う.
- (7)学会誌の発行形態に関し, 引き続き国際誌検討委員会との協働による検討を行う.
- (8)編集委員の負担軽減に取り組み, サステナブルな編集体制を構築する.
- (9)その他, 編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる.

#### 2-3. 国際協力委員会

{委員長:持丸 正明, 副委員長:八木 佳子}

- (1) IEA 評議会への出席
- (2) ACED 評議会への出席  
上記(1)(2)については国際協力委員が JES からの council member として 3 名分の投票権執行
- (3)IEA Congress 2024 (済州島) への参加と企画セッションの連携

(4)国際協力活動およびその他

- 1) IEA アワード申請への協力
- 2) IEA 内の各委員会への協力
- 3) ACED 内の各委員会への協力
- 4) 学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加
- 5) 学会誌への国際学会参加報告の執筆
- 6) 国際誌検討委員会への協力
- 7) そのほか, JES 活動に関する海外への情報発信, 国際協力委員会ウェブサイトの更新・広報など

## 2-4.ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:佐藤 洋,副委員長:横井 孝志}

ISO/TC159(人間工学)分野の規格の提案,作成,審議,ならびに人間工学JIS規格の作成,普及・啓蒙のための活動を行う。

(1)会議:全体会議3回,分科会延べ30回前後開催予定

(2)日本主導で審議が予定されている項目

・「サービスの人間工学」

新規提案をISO/TC159に提出した。提案が通った場合は新たなWGをTC159直下に設立,またはSC1/WG5にて規格を開発予定。

・WG2(高齢者・障害者の人間工学)

・ISO/TR 22411-2 Ergonomic data and ergonomic guidelines for the application of ISO/IEC Guide 71(2nd Edition)

・SC5(物理環境の人間工学)

・ISO/CD 24505-2 Ergonomics — Accessible design — Method for creating colour combinations — Part 2: For people with defective colour vision and people with low vision

・ISO/DIS 24505 Ergonomics — Accessible design — Method for creating colour combinations taking account of age-related changes in human colour vision

(3)国際会議予定

・TC159/SC1 関連会議,TC159/SC3 関連会議,TC159/SC4 関連会議,TC159/SC5 関連会議ほか

## 2-5. 表彰委員会

{委員長:吉武 良治,副委員長:國澤 尚子}

(1)表彰選考等に関係する広報委員会,編集委員会,国際協力委員会,ISO/TC159国内対策委員会,人間工学専門家認定機構等と連携し,公正かつ効率的な業務運営を行う。

(2)功労賞,論文賞,研究奨励賞,人間工学グッドプラクティス賞,トップ10%査読者賞,標準化貢献賞,実践論文賞の選考を行い,各受賞者に対する授与式を行う。

- (3)大会における優秀研究発表奨励賞の選考を行い,受賞者の所属する支部大会において授与する.
- (4)表彰委員会ウェブサイトの拡充を図るとともに,受賞者や表彰事例の周知等,学会内外への情報提供に努める.
- (5)本学会以外の IEA 等国内外の組織の表彰に対する候補者を推薦する.

## 2-6.学術担当

{担当:加藤 麻樹,能登 裕子}

日本学術会議,学術政策等の動向をウォッチするとともに,関連する他学会等との連携のための窓口として活動を継続して行う.

- (1) 部会間の連携を図り,研究リソース情報にかかる共有体制の構築を検討する.
- (2) 全国大会と学会との連携により,会員の研究リソースを周知に寄与する提案を検討する.
- (3) 日本学術会議,JSPS,他学会との連携による学際的研究シードの発掘に寄与する提案を検討する.
- (4) 複数大学間で研究協力者等の研究リソースにかかるデータベースを構築し,実験/調査リソースの共有を図る.
- (5) その他,人間工学に寄与する学術的発展的提案の具現化を検討する.

## 2-7.人間工学専門家認定機構

{機構長:榎原 毅,副機構長:仲谷 尚郁}

- (1)資格認定試験及び審査を実施する.
  - ・資格認定試験(A 方式試験)を年2回,東京と大阪会場で実施する.
    - 2024年9月7日(土) 東京開催
    - 2025年2月15日(土) 大阪開催
  - ・準専門家・人間工学プラクティショナー審査を年4回程度実施する.
- (2)定期総会,講演会,幹事会を開催する.
  - 講演会 日時 2024年4月19日(金) 15:00~16:45 現地とオンラインのハイブリッド開催
  - 下記2名の認定人間工学専門家によるご講演
  - 講演1:山田 幸子 様(本田技研工業株式会社)
    - 「自動車の研究開発と機構の幹事活動~2つがもたらす相乗効果~」
  - 講演2:水本 徹 様(株式会社島津製作所)「島津製作所における人間工学専門家の活動」
  - 総会 日時:2024年4月19日(金) 17:00~17:45 現地とオンラインのハイブリッド開催
  - 幹事会(2~3回開催予定)
- (3)再認定を促進するため,個別にご案内の連絡をする.今年度より準とプラクティショナーにもポイントの提出を求める.
- (4)JES内外にCPEの資格制度及び活動紹介を行うため,全国大会等で発表及びPRする.
- (5)機構ホームページ,会報,人材DB(ERGO Directory),学会大会,広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める.
- (6)CPEセミナー,CPEサロン(交流会)等のイベントを充実させる.
- (7)受験ガイドブック等を英語に翻訳し公開するなど,英語による受験への対応体制を整える.
- (8)「人間工学グッドプラクティス賞」(GP賞)の審査に積極的に協力する.
- (9)時代の変化と技術の進歩に対応するため,受験ガイドブック改定の検討を行う.

## [臨時委員会・担当]

### 2-8.若手支援委員会

{委員長:石橋 圭太,副委員長:齋藤 誠二}

- (1) 若手会員の研究やキャリア形成を支援するための企画を検討する。
- (2) 学生や若手が学会活動に継続的に参加できるような仕組みを検討する。
- (3) 他委員会,支部大会と連携した支援企画を検討する。

### 2-9. 企業活動推進委員会

{委員長:横山 詔常,副委員長:井出 有紀子}

前年度の活動内容を継承し,参加企業のニーズに基づいたイベント/セミナーを企画~実行することで,参加企業の取組み活性化を図る。

#### (1)アクションプラン

- ・企業での人間工学活動の現状や課題など(前年度の調査結果)について詳細分析する。
- ・上記の分析結果を基に,企業内活動を進めていくためのヒントや気づきが得られるような,イベント/セミナーなどを企画~実行する。

#### (2)活動成果の顕在化

- ・学会のホームページ,大会などを通じて情報発信する。
- ・他の委員会などとの連携を図り,活動内容を幅広くアピールする。

### 2-10.国際誌検討委員会

{委員長:榎原 毅,副委員長:村木 里志}

学会の公式和文誌「人間工学」は日本の重要誌500誌のひとつとして選定され,当時のJournal @rchive事業で全電子アーカイブ化がなされるなど,和文誌としては国内有数の歴史を持つジャーナルのひとつである。一方,学術成果の国際発信基盤の整備という面においては,周辺研究分野に比べ遅れている。日本人間工学会の特色ある公式英文誌の創刊を目指し,第7-8期で検討を進めた方向性について普及実装・運用計画を立案する。

- (1) 特色ある公式英文誌の方向性(7-8期策定):①「理論と実践の橋渡し」を促進させるジャーナル,②和文誌の資産を継承したハイブリッド・ユニバーサルジャーナル化(多言語対応),③創刊時にオンラインジャーナルへ移行,④IEA Endorsement Journal化
- (2) 具体的な普及実装・運用計画の立案:発刊予定の国際誌が対象とする範囲・特色や投稿規程,各種プラットフォーム(出版社,投稿・査読システム,査読方針,掲載料など),ジャーナル名称,ならびに組織運用体制などの制度設計を行う
- (3) 国際誌の継続発行(持続可能性)に関する方策の検討(論文投稿者のボトムアップ・育成方策を含む)
- (4) 人間工学研究知見の社会還元を促進させるトランスレーショナル・ジャーナルに必要な仕掛けの検討(国際誌のアウトリーチ戦略を含む)
- (5) その他,国際誌の発行・運営に必要な諸活動の実施

## 2-11.普及委員会

{委員長:松崎 一平,副委員長:和田一成}

人間工学は社会に広く浸透し、関連領域専門分野・学会等も普及しているが、すべての人がその恩恵を受けていない現状がある。人間工学基本概念の価値は不変であり、社会や産業界に欠かせない学問として広く啓発・発信し続ける必要がある。

「すべての人に人間工学が寄り添うやさしい社会」を実現するために、普及委員会は、JES内部ステークホルダと協働し、企業・教育現場・各団体組織・自治体・行政といった外部ステークホルダを巻き込み JES を活性化するための戦略的・効果的な普及活動を行う。

### (1)手段・方法

#### 1) 多様性を考慮した組織体制の整備

研究分野、支部会、所属組織、ジェンダー、年齢など、多様性を重視した委員メンバーの組織体制を構築し、JES内の縦・横・斜めの繋がりを強めるとともに、人間工学普及のための施策を検討する。

#### 2) 人間工学に関する教育機会の提供(セミナー開催)

年4回のオンライン会議形式によるセミナーでは、各委員会、研究部会等と協力し、人間工学の基礎から実践までわかりやすい教育講演を行う。全国大会や地方大会においては対面形式で学生向けの人間工学の基礎的ワークショップ等を企画する。

#### 3) 関連学会・研究部会などとの共同企画の実施および連携

関連学会・研究会との共同企画を進め、多分野の研究者をJES入会に繋げるような取り組みを行う。また、収益事業化のモデルケースを目指す。

#### 4) その他、本研究会趣旨に必要と思われる諸活動の実施

義務教育・高等教育レベルにおける人間工学教育環境の整備・実施など。

### (2)期待される成果

人間工学領域に関心のある研究者と問題意識を共有し、人間工学の基礎・実践を学ぶ機会を広範に提供することにより、関連領域の学問との交流を活性化し、若手研究者の勧誘を期待できる。人間工学の発展および学会員の増員は、「すべての人に人間工学が寄り添うやさしい社会」の実現に寄与する。

## 2-12.戦略・将来構想委員会

{委員長:持丸 正明,副委員長:鳥居塚 崇}

AI、メタバースなど技術環境の変化、デジタル、サービスと人間の関わりが重要視される産業変化、少子高齢化の社会変化に応じた人間工学の将来的な役割を検討し、関係省庁のステークホルダーを交えた議論を行う企画セッションを実施する。

## 2-13.PSE 委員会

{委員長:鳥居塚 崇,副委員長 榎原 毅}

IEA改訂「Core Competencies in Human Factors and Ergonomics」改訂版の日本語版をIEA Pressから出版する。IEA PSE(Professional Standard and Education)委員会と連携しながらJESおよび

BCPE-J 会員のスキルアップについて検討する。JES 理事長と CPE 機構長が定期的に情報交換を行い、人間工学の発展に向けた施策について検討する。

## 2-14. 利益相反・倫理委員会

{委員長:大須賀 美恵子,副委員長 鳥居塚 崇}

- (1) 学会が社会に対する説明責任を果たし、学会活動(理事会,委員会,学会および学術誌での発表など)の利益相反 (Conflict of Interest) 状態の透明性を確保し、公正な研究を推進していくために、利益相反のマネジメントを行う体制を整備する。利益相反に関する規程の整備ならびに規程に基づく運用を行う。
- (2) 日本人間工学会が 2020 年に改訂した「人を対象とする人間工学研究の倫理指針」について、国の倫理指針の要求水準との整合をはかる必要がある。2024 年度では国の指針との整合に関する確認を行い、再改訂の必要性の有無を検討する。

## 2-15. 人間工学研究標準化推進委員会

{委員長:佐藤 洋}

人間工学に関する研究成果を社会へ普及させる一環として JIS および ISO 等の標準化活動の枠組みを活用し、人間工学研究の社会実装を促進する活動を実施する委員会。今年度は以下の活動を実施する。

- (1) JES 会員やプロジェクトで ISO や JIS の規格になりそうな研究に対する規格化に向けた標準化のための作業やアドバイスによる支援および ISO や JIS への上程のための活動を推進する
- (2) 委員会の立ち上げおよび支援内容の構築を実施する
- (3) また、学術委員会と連携しながら、標準化の候補となる研究に取り組んでいる研究者に情報提供を行うなど、積極的に情報提供活動を実施する

## 2-16. 第 65 回大会担当

{担当:小林 大二}

【開催日】2024年6月22日(土)~23日(日)

【大会会場】公立千歳科学技術大学本部棟 対面開催

【懇親会会場】ANA CROWNE PLAZA CHITOSE

【内容】特別講演 (BOLDLY株式会社 代表取締役社長 兼 CEO 佐治 友基 氏)を予定

大会実行委員会企画セッション(「人間中心AIを人間工学の視点で考える」)他17の企画セッション,28の一般セッション,機器展示等

## 2-17.第66回大会

{担当:榎原 毅}

【開催日】2025年5月22日(木)~23(金) (予定)

\*5月21日(水)に若手向けセミナー等の企画を計画中

【大会会場】北九州国際会議場(予定)

対面開催を予定

【懇親会会場】(未定)

対面開催を予定

【内容】特別講演, 一般講演, シンポジウム, 日韓シンポジウム等

## [プロジェクト]

### 2-18.AMED プロジェクト

{担当:榎原 毅, 大須賀 美恵子}

・日本医療研究開発機構(AMED)によるヘルスケア社会実装基盤整備事業により, 「メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジー予防介入ガイドライン」が採択されている(代表:榎原 毅).

・メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テクノロジー(DHT, 通称 mHealth/eHealth と呼ばれ, インターネットやスマートフォン, センシングデバイスを活用したデジタル健康支援技術の総称)の適切な利活用を目指したエビデンス整備事業が推進されている. 日本産業衛生学会が中心となり, 日本人間工学会も関連団体として参画(JES 代表として大須賀美恵子 PIE 部会長が運営委員に参画)し, 多様なステークホルダ(サービス利用者, サービス事業者, 学術関係者など)との協同体制により, 産業保健分野に特化した Minds 参照の予防介入指針を社会発信する.

(2022 年度~2024 年度事業, 89,492 千円)

### 2-19.厚労省科研プロジェクト

{担当:榎原 毅, 鳥居塚 崇}

・令和6年度厚生労働科学研究費補助金(労働安全衛生総合研究事業)により, 「陸上貨物運送業を対象とした Minds 参照型腰痛予防対策ガイドラインの策定と予防対策の普及実装の推進(24JA1005, 代表:榎原 毅)」が採択された.

・第14次労働災害防止計画において, 陸上貨物運送事業の腰痛災害防止が重点目標となっており, 日本人間工学会が中心学会(JES 代表として鳥居塚崇理事長が協議会座長)となり, 関連4団体と連携して Minds 診療ガイドラインに準拠した「陸上貨物運送業の腰痛予防介入ガイドライン」を整備し, 社会へ発信する事業を推進する.  
(2024 年度~2026 年度事業, 33,836 千円)

## 2-20. 人間工学事典発刊プロジェクト

{委員長:鳥居塚 崇, 副委員長:榎原 毅}

丸善出版から打診されている, 人間工学の「全体像」ならびに「展望」を広く社会へ伝えることを目的とした「人間工学事典」を発刊することを目的としている. 本事典のポイントとしては, 物事を網羅的に解説するのではなく, 特に重要かつ読者の関心が高いと思われるテーマを選び出し, 調べ物用途だけでなく「読み物」としての不可価値のある見開き完結型の中項目事典として編纂することである. 掲げたテーマ(中項目)について, ときには近隣学問も取り込みながら解説することで, 読者がその周辺知識も一緒に知ることができ, 学術的興味がさらに広がって行くようなつくりを目指す. インターネットで手軽に用語検索して得る断片知識とは異なる, 全体像をとらえつつ読む→知る→さらに調べる, という知的体験・学ぶ楽しみを喚起する百科事典とする予定である.

## 2-21. ABW プロジェクト

{委員長:兵頭 啓一郎, 副委員長:福住 伸一}

(期間:2024.6~2027.2)

### (1) 概要

ABW (Activity Based Working)とは, 場所や時間, 進め方などを特定せず, 働く人がその時々の自らの活動(業務や作業内容)に応じて自ら適切な作業環境を選択できるようにする, 新しい働き方である. これには, 休憩なども含まれる.

10年ほど前から働き方改革という呼び声とともに, 多くの企業がテレワーク/リモートワーク, オンライン会議の導入などを図ってきたが, マネジメント側の仕組みが追いつかず, さほど普及してこなかった. しかしながら 2020年3月以降の COVID-19 パンデミックにより, 好む好まざるにかかわらず, 在宅勤務を余儀なくされ, オンライン環境での組織マネジメントが求められるようになり, 一気にこのような働き方が広がるようになってきた.

一方 ABW を適用すると 働く場所の人間工学についてこれまでの考え方を見直す必要性が指摘されている. これまでは 働く人は働く環境を提供されてきた. しかし ABW を適用すると 働く人が自ら働く場所を選択することになる. したがって, ABW を適用する場合, 働く人自身が自らの働く場所の人間工学について正しい知識を持ち, 自身の作業効率や安全性を向上させるための選択を行うことが必要となる. このような環境を実現するために, 企業は従業員が自身の健康と安全を確保しつつ, 最も効果的な働き方を選択できるよう支援する体制を整える必要がある.

本プロジェクトでは この状況を鑑み ウェルビーイングを実現するために ABW を適用する際に人間工学的に必要な要求事項を検討し 規格化を行う. なお, 本プロジェクトは, 経済産業省の標準化推進補助事業に基づいて実施する

### (2) 3年間の目標

#### 1) 本プロジェクトの目標

前述のように, 本プロジェクトでは, 経済産業省の標準化事業に基づいて行うため, 以下の 3つの国際標準および JIS の開発を目標とする.

- a) 既に提案済みの技術報告書 (TR) 「ABW に関連する人間工学」の開発
- b) 新規に提案する国際標準 (IS) 「ABW に関連する人間工学の要求事項」の開発
- c) 新規に提案する国際標準 (IS) 「ABW を実施する際の人間工学的要求事項 (仮称)」の開発



## 2) 規格策定に向けての指標化

- a) 経済的効果: ABW の導入により企業の生産性向上を目指す。具体的には、生産性指数を定めその向上のために ABW 導入企業の生産性を定量的に評価できるような指標を定め、前年度比での向上を定量化できるようにする
- b) 社会的効果: 効果: 従業員のウェルビーイング向上を目指す。具体的には、ウェルビーイング指数の向上: ABW 導入企業の従業員の満足度を指標定め、前年度比での向上を定量化できるようにする。

## (3) 提案の成果と影響

2026 年度の終了時点で、ABW の TR と IS が確立されることにより、国内外の企業における新しい働き方の定着と理解が進む。加えて JIS の策定を開始することにより 我が国での ABW の理解が深まり、正しく運用されることにより我が国企業でのウェルビーイング指数が高まることを期待している

## (4) 2024 年度スケジュール

- 1) ABW に関する国内外の活動のについて、コロナ前、コロナ禍及び現状の調査、整理を行い、標準化に必要な情報に関する分析を行う。
- 2) ABW を適用した際の効果を評価するためのすでに判っている指標に加えさらなる指標を調査し、その調査結果を整理する。
- 3) ABW に関する技術報告書の開発を進める。
  - ・上述の調査、整理の結果を、すでに開発をはじめている技術報告書に反映させ、開発を進める。今年度中に DTR がリリースできるように準備する。
- 4) ISO/TC 159/SC 4("Ergonomics of human-system interaction")および傘下の WG における規格化を進める。
- 5) 上記にて策定した技術報告書案を、ISO 159 SC4 ("Human and system interaction")にて提案し、DTR がリリースできるように準備する。
- 6) ABW について調査した結果から、ISO TC 159 SC4 にて標準策定提案をする
- 7) 規格原案を、ISO における NP 及びその後の審議に基づく発行を目指すために、上述の ABW 委員会にて国内の識者と打ち合わせする。その結果を受けて、ISO/TC 159/SC 4 での NP 提案ができるよう準備する。また提案がスムーズに受け入れられるよう 当該 SC4 会合を日本に招致し、会合を主催する。
- 8) JIS 開発のための調査を行う。
- 9) 今年度は、海外と日本の ABW に関する労働環境の差異を検証し、それに基づいて JIS 開発の具体的な方向性を策定する。日本の企業文化や労働環境に適した ABW のガイドラインを構築し、国際標準と整合性を持たせることを目指す。

## 2-22. 子どもの ICT 活用プロジェクト

{委員長:柴田 隆史, 副委員長:岡田 衛}

- (1) タブレット端末や大型ディスプレイなどの ICT 機器が学校に導入されている状況を鑑み、子どもが ICT 機器を活用する上での人間工学課題を検討し、学校教員のみならず児童生徒に対しても分かりやすく人間工学の視点や重要性を伝えることを、引き続き検討する。

(2) 第 65 回大会におけるシンポジウムや他の研究会や会議などの機会を活用して議論を深め, 子どもの ICT 機器利用の在り方を検討する.

### 3.支部活動

#### 3-1.北海道支部

{支部長:小林 大二}

##### (1) 支部役員会

日時:2024年7月上旬

場所:Web開催

議題:

- ・第65回大会実施報告
- ・2023年度北海道支部事業報告,2023年度決算報告
- ・2024年度北海道支部事業計画,2024年度北海道支部予算執行計画
- ・2024年度北海道支部総会の実施計画
- ・その他

##### (2) 2024年度支部総会

日時:2024年11月(予定)

場所:小樽商科大学(ハイブリッド開催)

議題:

- ・第65回大会実施報告
- ・2023年度北海道支部事業報告,2023年度決算報告
- ・2024年度北海道支部事業計画,2024年度北海道支部予算執行計画
- ・その他

#### 3-2.東北支部

{支部長:高橋 信}

##### (1)支部役員会

年3回の開催を予定(支部研究会時に開催)

他,必要に応じメール審議にて実施

##### (2)支部総会

1)日時:2024年5月上旬開催(予定)

2)場所:電子メールにて開催

3)議事:2023年度事業報告,2023年度決算報告  
2024年度事業計画案,2024年度事業予算案,など。

##### (3)支部研究会

年3回の開催(対面とオンラインのハイブリット)を予定。これまで山形市と仙台市を中心に行ってきた研究会を,支部内の他の地域での開催を検討し活動のより一層の活性化と交流を目指す。

##### (4)その他

研究会では,研究者と企業人・実務家との意見交換を積極的に行う。

#### 3-3.関東支部

{支部長:松田 礼}

##### (1) 第54回関東支部大会・第30回卒業研究発表会

1)開催日:2024年12月7日(土)

- 2) 大会長:持丸正明先生(産業技術総合研究所)
- 3) 場所:産総研臨海副都心センター(東京都江東区)
- (2) 支部総会
  - 1) 開催日:2024年12月7日(土)(予定)
  - 2) 開催方法:関東支部大会時に対面開催予定
- (3) 支部委員会
  - 1) 開催日:年2回開催(予定)
  - 2) 開催方法:1回は関東支部大会時に対面開催,他1回はWeb会議またはメール会議にて開催予定
- (4) 講演会(または見学会)
  - 1) 日時:2025年3月(予定)
  - 2) 場所:計画中
- (5) ニュースレターの発行  
 メールリストにより支部大会総会の案内,講演会の案内等を発行予定

### 3-4.東海支部

{支部長:横山 清子}

- (1) 日本人間工学会東海支部総会開催
  - 開催日時:2024年5月25日(土) 15:00-15:30
  - 開催場所:名古屋市立大学ミッドタウン名駅サテライト
  - 講演会:Adel MAZLOUMI先生(テヘラン大学教授)
- (2) 支部役員会
  - 第1回支部役員会:2024年5月25日(土) 14:00-15:00
  - 年3~4回程度対面で開催,必要に応じてオンラインまたはメール会議を開催予定.
- (3) 日本人間工学会東海支部 2024年研究大会の開催
  - 開催日:2024年11月2日(土)
  - 開催場所:愛知工業大学(愛知県豊田市)
  - 大会長:愛知工業大学情報科学部 松河剛司 先生
- (4) 東海支部企画
  - 実務者・初学者のための人間工学測定技法講座の開催を検討する.
  - 企業見学会等を年1回程度実施予定.

### 3-5.関西支部

{支部長:有馬 正和}

- (1) 企画・行事等
  - 1) 2024年度 関西支部 第1回見学会 6月~8月にできれば
  - 2) 2024年度 関西支部 第1回異分野連携技術者交流サロン 6月~7月にできれば
  - 3) 2024年度 関西支部 第2回見学会 10月~12月にできれば
  - 4) 2024年度 関西支部 第2回異分野連携技術者交流サロン 9月~10月にできれば
  - 5) 2024年度日本人間工学会関西支部大会
    - 大会長:奥野 竜平 先生(摂南大学 教授)
    - 開催日:2024年11月30日(土)
    - 会場:摂南大学(大阪府寝屋川市)

6)2024 年度 関西支部 第3 回異分野連携技術者交流サロン 1 月～ 3 月 にできれば

7)2024 年度 春季講演会(支部総会と併催)2025年 3 月下旬

## (2)会議等

1)第 1 回企画幹事会 2024 年4月ごろ

2)第 2 回企画幹事会(支部大会実行委員会) 2024 年 7 月ごろ

3)第 3 回企画幹事会 2024 年 9 月ごろ

4)第 4 回企画幹事会(支部大会実行委員会) 2024 年 10 月ごろ

5)第 5 回企画幹事会(支部大会実行委員会) 2024 年 11 月ごろ

6)2025～2026 年度評議員選挙 2024 年 11 月～2025 年 1 月

7)第 1 回評議員会・役員会合同会議(支部大会と併催) 2024 年 11 月 30 日

8)第 6 回企画幹事会 2025 年 2 月ごろ

9)第 2 回評議員会(メール審議)2025 年 2 月

10)2024 年度会計監査 2025 年 3 月

11)第 2 回評議員会・役員会合同会議 2025 年 3 月(総会と併催)

12)2024 年度関西支部総会 2025 年 3 月

13)2024 年度支部大会優秀発表賞 表彰式 2025 年 3 月

※11～13 は併催の予定

その他,必要に応じて,企画幹事会および評議員会メール審議を行う

## 3-6.中国・四国支部

{支部長:石原 恵子}

### (1) 任期満了による支部長の交代

支部役員選挙の結果から,2023 年度第2回支部理事会において石原恵子先生(広島国際大学)が次期支部長で決定,任期は 2024 年 6 月から2年間

### (2)支部理事会開催

第 1 回:2024 年 4 月下旬,オンライン開催(計画の実行状況,支部大会のスケジュール等を討議)

第 2 回:2024 年 11 月下旬もしくは 12 月上旬,オンライン開催あるいは,支部大会実施時に会場にて対面開催

### (3)支部代議員会開催

2024年 11 月下旬もしくは 12 月上旬,支部大会の時に開催予定

### (4)支部総会開催

2024年 11 月下旬もしくは 12 月上旬,支部大会の時に開催予定

### (5)2024年度日本人間工学会中国・四国支部大会の開催

2024年 11 月下旬もしくは 12 月上旬

開催場所:周南公立大学(山口県周南市) 大会長:同大学,土屋敏夫先生

### (6)支部講演会開催

年数回実施(予定),他学会との共催を含む

### (7)支部主催・共催行事の実施

随時.共催として,他学会の研究会に対して,互いに参加のプロモーションを行う

## 3-7.九州・沖縄支部

{支部長:小崎 智照}

(1)活動計画

1)2024 年度支部代議員会

・開催日:未定

・会 場:未定(オンライン会議を予定)

2)2024 年度支部総会

・開催日:2024 年 11 月 30 日(土)

・会 場:長崎大学

3)第 45 回支部大会

・開催日:2024 年 11 月 30 日(土)

・会 場:長崎大学

・大会長:中島弘貴(長崎大学)

## 4.研究部会活動

### 4-1.ビッグデータ人間工学研究部会

{部会長:吉武 良治}

<2020.4.1~2025.3.31>

#### (1)2024 年度研究部会テーマ

- 1) 今あるデータを活用した人間工学
- 2) 研究部会活動およびビッグデータ活用ノウハウ集
- 3) 「+人間工学」活動の開始

#### (2)活動内容(手段・方法)

- 1) 年間を通じて幹事間の情報交流を主に電子メールを用いて行う。また、新たな幹事を募集し、執行体制の強化を図る。
- 2) ノウハウ集の基盤となるシステムについて、より拡充・活用しやすいよう、検討していく。
- 3) 年3回の講演会・談話会・勉強会等をオンラインにて開催する。

#### (3)期待される成果

- 1) データサイエンティスト他、ビッグデータを扱う人材は増加している。マーケティングやモノ作りなどで、データの解析には人間の特性を知る必要があることが多いため、それら研究者・実践者に気づきと人間工学の知識を加える、「+人間工学」活動を開始し、人間工学の普及に貢献する。
- 2) 人間工学の視点でまとめられたビッグデータ活用ノウハウ集を世の中に提供することで、人間工学を社会に普及させる。

### 4-2. PIE 研究部会

{部会長:大須賀 美恵子}

<2020.4.1~2025.3.31>

#### (1)活動目的

本部会は 2020 年度に新体制で発足して以来、5 年目を迎える。最終年度は前年度に引継ぎ、昨今の生体計測を取り巻く課題を抽出し啓発活動に尽力するとともに、次年度以降の部会の在り方について議論し案を策定する。ウェアラブルデバイスやスマートフォン内蔵カメラを利用した生理計測・身体活計測が可能となり、ヘルステックビジネスの重要な要素となっている。しかし、これらのデバイスやアプリの多くは、生データを提供せず、計測不備に対する対応やデータの定量化手法について公開していない。また、指標変化の解釈も実験室内の限定された条件で得られたエビデンスにのみ基づいており、実生活に伴う不備や課題が検討されているとはいえないケースもある。これらの問題に対し、従来の適切な生理心理計測の手法および人間工学分野に適用する際の正しい知識や方法論を提供し、課題を明確にすることも部会の重要な役割である。また、研究と実用(ビジネス)のギャップを埋め実現可能な提案をするには、アカデミアだけでなく、デバイス開発者やエンジニア、データサイエンティスト、ユーザなど多様なメンバーが参画できる場の提供を模索する。

#### (2) 2024 年度の活動内容(手段・方法)

- 1) 本学会の全国大会、支部大会のいずれかにおいて、部会の企画セッションを行う。多様な人の参画を得るために、可能な限りハイブリッド開催をめざす。すでに、本学会の第 65 回大会では、「実場面で生理心理計測を用いて「効果を測る」難しさ」と題した企画セッションを予定している。
- 2) 学会間交流をさらに進める。具体的には、第 63 回日本生体医工学会大会(2024.5.23-25, 鹿児島)において、シンポジウム「日常・産業場面におけるウェアラブル生体計測デバイスの活用と課題~いつでもどこでもあなただけをめざして~(3)」の開催を予定している。また、本学会の第 65 回大会では、日本バーチャルリアリティ学会との連携セッションを企画している。
- 3) AMED 予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業「メンタルヘルスに対するデジタルヘルス・テク

「ノロジ予防介入ガイドライン」統括運営グループに日本人間工学会の代表として参加し、リエゾン役を務める。本学会の第65回大会に向けて、部会および学会員の意見をくみ上げて、関連セッションでの話題提供につなげる。

- 4) ワークショップや講習会などの対面イベント(有償も含む)については、部会単独での実施は見送り、本部企画に協力するなどの方法を模索する。
- 5) 部会運営ミーティングあるいはメーリングリスト利用の議論により、次年度以降に部会の在り方について議論し、新体制で継続、あるいは形を変えてミッションに取り組むことを前向きに検討する。

#### 4-3.科学コミュニケーション部会

{部会長:山田 泰行}

<2020.5.8~2025.3.31>

##### (1)2024 年度研究部会テーマ

- 1) 人間工学における科学コミュニケーションのコンセンサス発信
- 2) 人間工学の社会実装に向けた科学コミュニケーション企画の開催
- 3) 人間工学の研究成果を効果的に社会発信していくための方策や指針の策定

##### (2)活動内容(手段・方法)

- 1) 部会総説論文の投稿や学会発表、シンポジウムを通して、人間工学の科学コミュニケーションに関する学会員とのコンセンサスを形成する。
- 2) 「7つの人間工学ヒント」を参考にして、人間工学の研究成果を社会に役立つように発信・共有するための指針を提示する。

##### (3)期待される成果

- 1) 人間工学会における科学コミュニケーションの意義や理解について学会員との共通理解が深まる。
- 2) 人間工学と科学コミュニケーションの枠組みから効果的に科学情報を発信・共有するためのヒントが提示される。

#### 4-4.感性情報処理・官能評価部会

{部会長:石原 正規}

<2023.4.1~2026.3.31>

##### (1)テーマ

2024 年度は以下の2点をテーマとする

- 1) 感性情報処理と官能評価に関わる諸問題を多角的に取り上げ、研究者・デザイナーおよび職人・熟練者どうしの情報交換と研究の活性化、および研究内容の深度化に資する機会を提供するとともに、この領域の若手研究者およびプロの職業人・設計者の育成をはかる。
- 2) 基礎領域研究の学びを通して、人間の知覚や認知についてのメカニズムと機能的特徴を理解する。またそれらがどのように行動と関わっているのかについて理解を深める。実験心理学、行動科学の視点から、環境への適応に関わる諸問題の理解、解決に役立てるための機会を提供するとともに、若手研究者および実践者の育成をはかる。

##### (2)手段・方法

感性情報処理や官能評価の基盤となる人間の感覚・知覚・感情・認知・行動等の諸特性、およびそれらの測定・評価方法や数理モデル等の研究成果や製品、サービス等の開発成果について先端的独創的な研究を紹介する。これに加えて、講演会や若手研究者を主体とした研究会や関連の研究・開発施設や工房などの見学会などを必要に応じて企画・実施する。以上の活



動を通して研究者やプロの職業人・設計者相互の情報交換や交流をはかるとともに、両者の研究意欲を喚起し、人間工学に限定されない具体的かつ有益なアウトプットの創出の機会を支援する。

### (3)期待される成果

主に感性情報処理と官能評価に関わる研究者の関心や専門領域を共有しつつ、新たな情報や手法に刺激される機会、学ぶ機会を広範に提供することにより、特に若手研究者の裾野の拡大や関連研究領域との交流を活性化させることが期待できる。また、研究成果の実用化に伴うさまざまな困難や課題を相互に共有・議論する機会を提供し、支援することを通して、人間工学の一層の発展に資することが期待できる。

以上は、人間工学の実践における人間理解の拡大・深度化につながるものと考えられる。それらの活動過程で、これまで職人や熟練者の職能・技能としてのみ伝えられてきたモノづくりのノウハウを技術化、見える化し、それらを広く一般に提案し、還元することで、これまでの研究手法や体験、モノづくりに新たな価値（例えば感性価値や経験価値）を付加することを可能とする。

## 4-5.衣服人間工学部会

{部会長:土肥 麻佐子}

<2022.4.1~2027.3.31>

### (1)活動テーマ

2012年度より継続して「グリーンファッションに関する研究」をテーマにした活動を行なっている。今年度についても、衣服のサプライチェーンの側面から、着装のあり方、廃棄ゼロを目指した衣服の構造・デザイン、衣服材料の使い方、衣服のライフサイクル、フェアトレードなど、SDGs 達成への貢献を視野に入れた研究活動、啓蒙活動を進めていく予定である。

### (2)活動計画(方法・手段)

- 1) 幹事会 Zoomやメール、対面による幹事会の開催
- 2) 研究例会の開催 Webと対面で2回程度開催予定
  - ・8月 web 講演会および web ワークショップ
  - ・2月 工場見学および web 講演会

### (3)期待される成果と展望

講演会、工場見学、ワークショップなどを行うことにより、グリーンファッションに関する研究・教育についての意見交換および研究交流の活性化が期待できる。また、講演会や対面での見学会の開催により、消費科学的立場より地球環境問題に対する意識の向上に貢献できると考えている。今後これまでの活動の成果を冊子やDVDなどにまとめることについても検討したい。

## 4-6. 医療労働関連MSDs 研究部会

{部会長:松崎 一平}

<2022.6.1~2027.3.31>

### (1)活動テーマ

パーパス「すべての医療従事者を守る快適な労働環境をつくる」を実現するために、2024年度は、懇話会・総会・世話人会を通して様々な医療現場のMSDs 課題の洗い出しを行い、医療従事者、学会員、企業の組織構築を行い、他学会との共催・協賛・連携を通じて議論を進める、中期目標、提言書等アウトプットの設定を具体的に進める。

### (2)手段・方法

- 1) 医療労働関連 MSDs 予防のためのツール・教材の検討・開発  
懇話会・総会を通じて、様々な医療従事者（医師、看護師、技師、理学療法士等）のMSDs 課題を抽出する。  
提言書、オンデマンド教材、アプリ等の開発を検討するため必要なタスクチームの組織化を検討し、バックキャストिंग手法で中期計画を策定し実行する。
- 2) 医療労働関連 MSDs に関する教育機会の提供（研究会の開催）  
年4回のオンライン会議形式による医療 MSDs 懇話会では、引き続き話題提供を呼び水に活発な議論を行う。全国大会や地方大会においては対面形式で MSDs 軽減のための機器体験会やワークショップ等を企画する。  
・活動予定  
5月 第5回医療 MSDs 懇話会 テーマ「看護・介護の MSDs (仮)」  
6月 全国大会 医療労働の課題から、ヒトと知能・自律型システムの共存を考えるワークショップ  
8-9月 第6回医療 MSDs 懇話会 テーマ「外来デスクワークの課題(仮)」
- 3) 関連学会・研究部会などとの共同企画の実施および連携  
医療系学会、産業衛生系学会などを含む関連学会との共同企画、連携を進める。他研究部会との共同企画も計画する。
- 4) 医療労働関連MSDs 軽減のグッドプラクティス・機器情報の収集と発信  
グッドプラクティスデータベース、研究部会HPを活用して医療MSDs軽減に繋がる製品の収集・発信に努めるとともに、研究部会HPを活用して、リレー形式の人間工学会員による教育コンテンツを発信する。
- 5) その他、本研究会趣旨に必要と思われる諸活動の実施  
安定した研究部会活動推進のため内規を策定する。

### (3)期待される成果

MSDs に関心のある研究者と問題意識を共有し、人間工学手法を学ぶ機会を広範に提供することにより、若手研究者の勧誘、関連領域の学問との交流を活性化させることが期待できる。研究部会で知識を得た医療従事者が各医療系学会等で教育・啓発するとともに、医工連携の推進により MSDs 軽減に繋がる人間工学に基づいた医療関連機器の開発が進み、人間工学の発展および学会員の増員に寄与することが期待できる。

## 4-7.航空人間工学部会

{部会長:田中 敬司}

<2023.4.1~2028.3.31>

### (1)テーマ

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化を目的として、他分野を含む幅広いヒューマンファクター研究にかかわる進展、事故事例から得た人間特性及びヒューマンマシンインターフェイスに関する事故防止方策の動向を分析検討する。

### (2)方法・手段

#### 1) 研究例会（公開講座）の開催

日時:2024年7月9日(火)13:00-17:00(予定)

場所:野村不動産天王洲ビル2階会議室(ウイングホール)

講演:Advanced Air Mobility 関連の4演題を予定

#### 2) 施設見学会の実施

ヒューマンファクターや各企業による安全への取り組みなどを介し、学び・知見を得ることを目的に、施設見学会を計画・実施する。可能な限り、一般公開していない施設・場所を対象とする。

また、人間工学に関する基本知識の学習、他研究部会の講演、イベントへの参加なども検討する。

### 3) 部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みにも活用する。また、例会講演資料の電子化への対応を検討する。

### 4) 委員会・幹事会の開催

適宜委員会及び幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。対面式・オンライン形式の両方を活用し、効率化をはかる。

### 5) 部会活動条件の実施計画

学会誌への投稿、または学会の全国大会または支部大会での発表について検討、実施する。

## (3)期待される成果

例会（公開講座）及び見学会の活動を通じ、航空安全の推進に関わる官・民・学の関係者が交流する場を当部会が提供する。関係者がお互い情報を共有し、議論を行うことや、新たな人脈を構築することで航空人間工学や航空安全技術に関する動向等の知見獲得が可能となり、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものとする。

## 4-8.アーゴデザイン部会

{部会長:郷 健太郎}

<2024.4.1~2029.3.31>

### (1)活動テーマ

「ビジョンと社会実装」～ビジョン創りとこれを社会に実装するための方法論の研究～

2024年度はフューチャーエクスペリエンス(FX)の確立に向けた実践的な手法で事例を通じた研究活動を実施する。また、これまで研究してきたビジョン提案型デザイン手法との関係を明快にし、アーゴデザインを実践する。社会環境性とその実現性を踏まえた人間工学研究がより必要となると考え、「ビジョンと社会実装」についての研究と議論をアーゴデザインの視点から実施していくこととする。

### (2)手段・方法

#### 1) フューチャーエクスペリエンス(FX)-WGの活動強化

フューチャーエクスペリエンス(FX)-WGの活動を今年度も更に強化していく。部会活動のテーマである「「ビジョンと社会実装」～ビジョン創りとこれを社会に実装するための方法論の研究～」の検討を本格化させ、新たな方法論確立に向け、ワークショップ、ミーティングを可能な限り実施を行い、その研究活動と方法論発表の機会を創り出す。

#### 2) フューチャーエクスペリエンス(FX)の啓発・普及活動の実施

「フューチャーエクスペリエンス(FX)」については、これまで以上に EXPERIENCE VISION 普及のためのイベントを開催する。また、Zoom や Miro などのツールによるオンラインセミナー、オンラインワークショップを行い、「ビジョン創りとこれを社会に実装するための方法論の研究」の活動との連携を図る。

#### 3) 学生会員に対する部会活動の充実

定着した学生会員制度により、学生会員が固定化している。2019年度よりFX教育WGを設立し、これまで以上に学生の研究やデザイン活動を支援する活動の充実を図る。これにより、次世代を担う研究者やデザイン実務者の育成を強化する。

### (3)期待される効果

テーマに関する研究を本格化することで、将来の社会、環境のあり方を見通し、人間生活をデザインするための基盤となるフューチャーエクスペリエンス(FX)「ユーザー、企業、社会環境の三方よしのビジョン提案型デザイン方法論」(手法やプロセス)を提供することができる。更にこの方法論を取り入れた「新しい EXPERIENCE VISION」の啓発・普及により、社

会,環境,産業に貢献できる。

#### (4)活動予定

- 4月 幹事会(幹事の役割,担当行事の検討)
- 7月 FXフォーラム開催
- 9月 コンセプト事例発表会,幹事会
- 11月 見学会開催
- 1月 FXフォーラム開催(HCD\_net 京都サロン合同)
- 3月 2024年度 合宿研究会,総会,幹事会

### 4-9.海事人間工学研究部会

{部会長:村井 康二}

<2023.4.1~2028.3.31>

#### (1)テーマ

日本は海に囲まれた島国であることから,他国に比べて多くの方が海に携わった仕事に従事している。更に,仕事として関わりが無くても,非常に多くの方が趣味としてマリレジャーを楽しんでいる。しかしながら,これら海事の分野において,人間工学を学術的に取り入れた研究や製品開発に活かした事例は現時点ではまだまだ少ない。そこで,本研究部会の活動を通して,人間工学を海事分野に広く普及させ,海事の現場に人間工学に基づき設計されたシステムや製品導入を加速させる。

#### (2)手段・方法

##### 1)企画セッションの提案

毎年度,人間工学会の全国大会や支部大会で本研究部会が主体となった企画セッションを行い,様々な分野の人間工学の研究者と議論を交わし,海事人間工学研究の活性化を行う。2024年度は全国大会で企画セッションを行う予定である。

##### 2)見学会の開催

2024年度においては,昨年度に順延となった自動・自律化船のシステム評価のために開発された海上技術安全研究所の総合シミュレーションシステムの見学会を企画する予定である。

##### 3)学会誌への情報発信

海事人間工学研究部会の研究成果の一つであるダイバーの安全監視にかかる「水中におけるヒトの生体電位計測」について取り纏め学会誌へ情報発信する予定である。

##### 4)幹事会の開催

本研究部会の円滑な運営を図るため,毎年度2回以上の幹事会を開催する。また,コミュニケーションの頻度を増やすため,WEB会議システムも活用する。

#### (3)期待される効果

企画セッションや見学会の開催を通じて,最新の海事関連研究に関する情報を発信する。また,研究者や技術者との連携を発展させることで,更なる海事関連研究の活性化及び課題解決を図る。

### 4-10.ワーク・アーゴノミクス研究部会

{部会長:井出 有紀子}

<2023.4.1~2028.3.31>

#### (1)テーマ

在宅勤務やオンライン会議などのオフィスワークでの新しい働き方や環境も踏まえつつ,ポストコロナ時代の働き方や定年延長や人生100年時代,多様性雇用を見据えて,働く人々の健康と安全を守るための人間工学について研究するとともに,知識の普及を図ることを目的とする。

## (2)手段・方法

- 1)幹事会 メールやZoom, 対面による幹事会を開催する
- 2)テレワークの人間工学ガイドライン(FAQなど)の改訂追加する
- 3)第65回大会における企画セッションを実施する
- 4)高齢者や女性の雇用対策や多様な働き方を行っている事業所の見学会を実施する
- 5)セミナーの開催 日本人間工学会などと共催で働く環境等をテーマにセミナーを開催する

## (3)期待される効果

定年延長政策により高齢者の働く環境への対策や、女性活用による様々な雇用形態の環境の研究をするとともに、今年度は、ガイドラインとしてアウトプットすることにより、社会への発信とプレゼンス向上が期待できる。また、第65回大会の企画セッション「働き方の自己管理 ～自分を守るために～」で、ISOの改定や働く環境での自己管理の事例等を発表することによって、人間工学会内でのより深い議論を期待できる。

## 4-11.システム大会部会

{部会長:衛藤 憲人}

### (1)本会の目的

人間工学をシステム論的立場から研究・議論することを目的に、感性情報処理・官能評価部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会を中心として立ち上がった本部会は、今年で 33 年目を迎えた。毎年 3 月に開催される研究発表会(システム大会)は、2019 年度より新型コロナウイルス拡大の為 On Line にて開催が続いたが、本年度よりハイブリッド(対面+オンライン)開催となった。対面による活発な議論に加え、遠方の発表者の参加を可能とするオンライン開催は参加者に非常に好評であった。研究者として第一歩を踏み出す若手研究者、卒業研究生、修士研究生にとって、日本人間工学会全国大会(毎年 6 月開催)・各地方支部大会前の所謂、萌芽的研究段階における重要な発表の場となっている。さらに近年、全国各地から大学関係者、企業研究者の発表も増え、医学から工学、さらには人文科学領域にわたる幅広い分野の研究者が集い、議論できる同大会は盛況である。

### (2)活動の内容

第 32 回システム大会(令和五年度大会、埼玉県立大学主催)をハイブリッドにて開催した。二日にわたり行われた大会には、対面・オンラインをあわせのべ 120 名を超える参加者を集め、極めて盛況であった。同大会を通じて、学生、若手研究者にも人間工学への興味を持ってもらい、日本人間工学会会員にすべく努力する予定である。次期大会(第 33 回システム大会、主催校未定)開催に向け、年数回、大学教員を中心に幹事会の実施を計画する。